#### 第Ⅱ部 アメリカ合衆国における労働災害発生状況について

(資料作成者注:2019 年 8 月末現在では、アメリカ合衆国の労働災害統計を担当しているアメリカ合衆国労働省労働統計局(The Bureau of Labor Statistics (BLS)) は、2018 年についての関連する統計を発表していません。そのホームページは、次のとおりその公表予定が示されています。

Schedule	公表予定
November 2019 - Employer-Reported Workplace Injuries and	2019 年 11 月―使用者から報告された職場での傷害及び疾病 [2018]
Illnesses (2018 data)	年データ]
December 2019 - Census of Fatal Occupational Injuries (2018 data)	2019 年 12 月―死亡労働傷害調査(2018 年データ)

そこで、本稿では「I」として既に2019年1月6日に、当国際センターのウェブサイト:

#### https://www.jisha.or.jp/international/topics/pdf/201901\_02.pdf

で公表した「2017年におけるアメリカ合衆国の死亡労働災害発生状況について」、

及び「II」として既に 2019 年 1 月 6 日に、当国際センターのウェブサイト: <a href="https://www.jisha.or.jp/international/topics/pdf/201901\_02.pdf">https://www.jisha.or.jp/international/topics/pdf/201901\_02.pdf</a> で公表した「アメリカ合衆国労働統計局は、2017 年における使用者(雇用者)が報告した職場における傷害及び職業性疾病の発生状況」を、それぞれ、再掲することとしました。

#### I 2017年におけるアメリカ合衆国の死亡労働災害発生状況について(再掲)

アメリカ合衆国労働省労働統計局は、2018年12月18日に、2017年における死亡労働災害(労働者及び自営業者を含み、

さらに連邦、州及び地方自治体の公務員を含む。)に関する調査結果を公表しました。本稿ではその全文(図表を含む。)を、

「英語原文―日本語仮訳」として、及び必要に応じて資料作成者の注等を付して紹介するものです。

#### (総括的な説明)

アメリカ合衆国労働省労働統計局は、2018年12月18日に、2017年における死亡労働災害*(賃金や給料の支給を受ける労働者及び自営業者に関するもの。以下同じ。)*に関する調査結果を公表しました。

この発表によれば、

- 2017年における年間の記録された死亡労働災害は、5,147件(人)(うち、労働者の死亡災害は4,069件(人)で、自営業者の死亡災害は1,078件(人))で、2016年の5,190件(人)(うち、労働者の死亡災害は4,098件(人))で、自営業者の死亡災害は1,092件(人))よりは若干減少したとアメリカ合衆国労働統計局は発表しました(図1を参照されたい。)。
- フルタイム換算労働者 100,000 人当たりの死亡災害発生率は、2016 年の 3.6 (民間産業については 3.8) から 2017 年では 3.5 (民間産業については 3.7) に減少しています。(表 1 及び 4 を参照されたい。)

なお、この発表を受けて、合衆国労働安全衛生局(US-OSHA)担当の労働副長官代行である Loren Sweatt 氏は、「今日の報告では「職場の労働死亡災害の減少が示されているが、労働者のただ一人の生命の損失でも多すぎるものです。合衆国労働安全衛生局は、業務の創造者(使用者)に対して法の下での責任について教育することを含む包括的な法の施行及び遵守への援助及び労働者への強固な教育を通じて、アメリカの労働者の健康及び安全を確保することを約束します。」と声明しています。

(資料作成者注:以下の記述において、「イタリック体で表記している部分」は、資料作成者が文意を補足する等のために加えたものです。)

#### ○原資料の題名と所在

● 題名

NATIONAL CENSUS OF FATAL OCCUPATIONAL INJURIES IN 2017

News release, Bureau of labor Statistics, U.S. DEPARTMENT OF LABOR







#### ● 原資料の所在

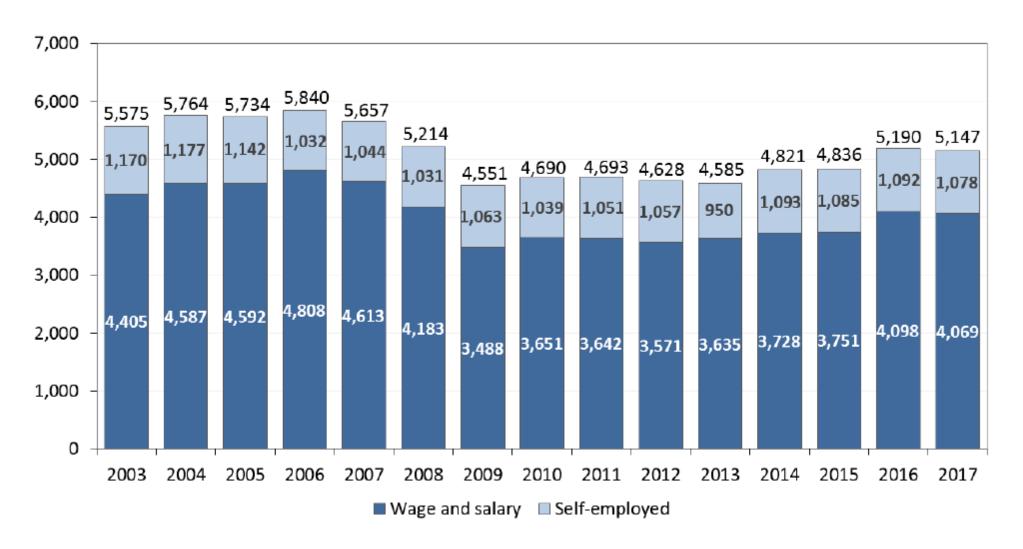
https://www.bls.gov/news.release/cfoi.nr0.htm

英語原文	日本語仮訳	
NATIONAL CENSUS OF FATAL OCCUPATIONAL INJURIES IN 2017	2017年の死亡労働災害の全国調査結果	
For release 10:00 a.m. (EST) Tuesday, December 18, 2018, USDL-18-1978	東部標準時 2018 年 12 月 18 日 (水曜日) 午前 10 時。 <i>(発表番号)</i> USDL-18-1978	
Technical information: (202) 691-6170 • iifstaff@bls.gov •	技術情報: (202) 691-6170	
www.bls.gov/iif/oshcfoi1.htm	コンタクト先のアドレス:	
	• <u>iifstaff@bls.gov</u> • <u>www.bls.gov/iif/oshcfoi1.htm</u>	
Media contact: (202) 691-5902 • PressOffice@bls.gov	Media contact: (202) 691-5902 • PressOffice@bls.gov	
There were a total of 5,147 fatal work injuries recorded in the United States	合衆国では2017年に全体で5,147件(人)の死亡労働災害が記録されており、2016	

in 2017, down slightly from the 5,190 fatal injuries reported in 2016, the U.S. Bureau of Labor Statistics reported today. (See chart 1.) The fatal injury rate decreased to 3.5 per 100,000 full-time equivalent (FTE) workers from 3.6 in 2016. (See table 1.)

年に報告された 5,190 件 *(人)* の死亡労働災害よりも若干減少したと、労働統計局は本日報告しました (図 1 参照)。フルタイム換算労働者 100,000 人当たりの死亡災害発生率は、2016 年の 3.6 (民間産業については 3.8) から 2017 年では 3.5 (民間産業については 3.7) に減少しています。(表 1 及び 4 参照)

Chart 1. Number of fatal work injuries by employee status, 2003–17



# (資料作成者注:

- Wage and salary 賃金及び給与を得ている者
- Self-employed 自営業者

#### Type of incident

Fatal falls were at their highest level in the 26-year history of the Census of Fatal Occupational Injuries (CFOI) accounting for 887 (17 percent) worker deaths. Transportation incidents remained the most frequent fatal event in 2017 with 2,077 (40 percent) occupational fatalities. Violence and other injuries by persons or animals decreased 7 percent in 2017 with homicides and suicides decreasing by 8 percent and 5 percent, respectively. (See chart 2 and table 2.)

- Unintentional overdoses due to nonmedical use of drugs or alcohol while at work increased 25 percent from 217 in 2016 to 272 in 2017. This was the fifth consecutive year in which unintentional workplace overdose deaths have increased by at least 25 percent.
- Contact with objects and equipment incidents were down 9 percent (695 in 2017 from 761 in 2016) with caught in running equipment or machinery deaths down 26 percent (76 in 2017 from 103 in 2016).
- Fatal occupational injuries involving confined spaces rose 15 percent to 166 in 2017 from 144 in 2016.
- Crane-related workplace fatalities fell to their lowest level ever recorded in CFOI, 33 deaths in 2017.

#### 災害の型

墜落による死亡は、死亡労働災害の全国調査 (CFOI。以下同じ。)の26年の歴史の中で最も高いレベルであり、887人(17%)の労働者死亡者を数え、交通事故は、2017年に最も頻繁に発生した死亡事象であることを持続し、2,077人(40%)の労働死亡災害であった暴力やその他の。人や動物による傷害は2017年に7%減少し、殺人と自殺はそれぞれ8%と5%減少しました。(図2(主要な出来事別の死亡災害(数))及び表2(主要な出来事別の死亡災害(数)。表2については別に掲載します。)を参照されたい。

- 薬剤の非医学的使用による意図しない過剰投与や勤務中の飲酒は、2016 年の 217 件から 2017 年の 272 件に 25%増加しました。これは、意図しない職場での過剰投与による死亡災害が少なくとも 25%連続で増加した第5年目です。
- 物体や設備との接触事故は、9パーセント(2016年の761人から2017年に695人)減少し、稼働中の設備又は機械に巻き込まれた死亡事故は、26%減少(2016年の103件(人)から2017年は76件(人)に)しました。
- 密閉空間が関係する死亡労働災害は、2016年の144件(人)から2017年の166件(人)へと15%増加しました。
- クレーン関連職場の死亡災害は、2017年の33件(人)で、CF0I出記録された最も低いレベルにまで減少しました。

Chart 2. Fatal occupational injuries by major event, 2016-17

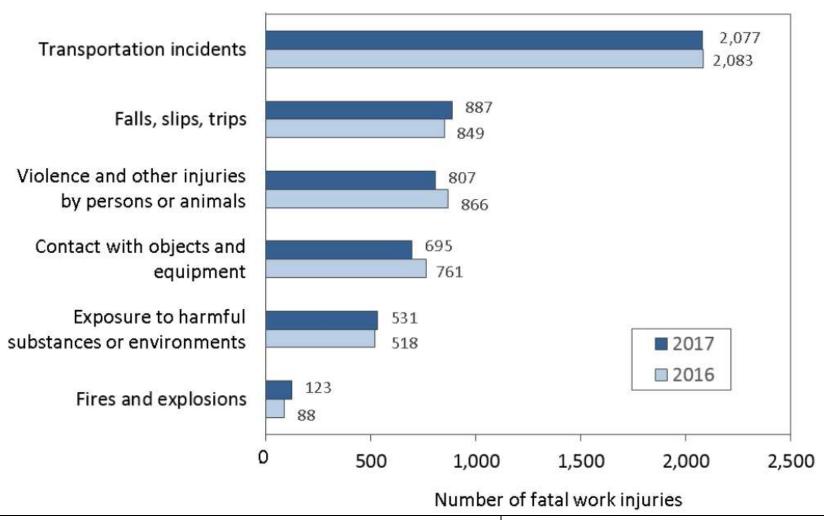


Chart 2. Fatal occupational injuries by major event, 2016-17

図 2 主要な事象別の死亡労働傷害、2016-17

(資料作成者注:図2における主要な事象 (major event) についての英語原文—日本語仮訳を、次の表に掲げた。)

英語原文	日本語仮訳
Transportation incidents	運搬中の事故
Falls, slips, trips	墜落、滑り、つまずき
Violence and other injuries by persons or animals	暴力及びその他の人又は動物による傷害
Contact with objects and equipment	物体及び設備との接触
Exposure to harmful substances or environments	有害な物質又は環境へのばく露
Fires and explosions	火災及び爆発

#### Occupation

The transportation and material moving occupational group and the construction and extraction occupational group accounted for 47 percent of worker deaths in 2017. Within the occupational subgroup driver/sales workers and truck drivers, heavy and tractor-trailer truck drivers had the largest number of fatal occupational injuries with 840. This represented the highest value for heavy and tractor-trailer truck drivers since the occupational series began in 2003. Fishers and related fishing workers and logging workers had the highest published rates of fatal injury in 2017. (See chart 3.)

- Grounds maintenance workers (including first-line supervisors) incurred 244 fatalities in 2017. This was a small decrease from the 2016 figure (247) but was still the second-highest total since 2003. A total of 36 deaths were due to falls from trees, and another 35 were due to being struck by a falling tree or branch.
- There were 258 fatalities among farmers, ranchers, and other agricultural

#### 職業

2016年には、輸送及び物体移動職業のグループ、建設及び抽出職業グループは、2017年における労働死亡災害の47%を数えまし。細分類である運転販売労働者、トラック運転者、重トラクタートレーラー運転者は、840件という最も多い死亡傷害がありました。

これは、2003 年に職業別の分析が始まって以来、重トレーラー及びトラクター 運転手の最高値を示しています。

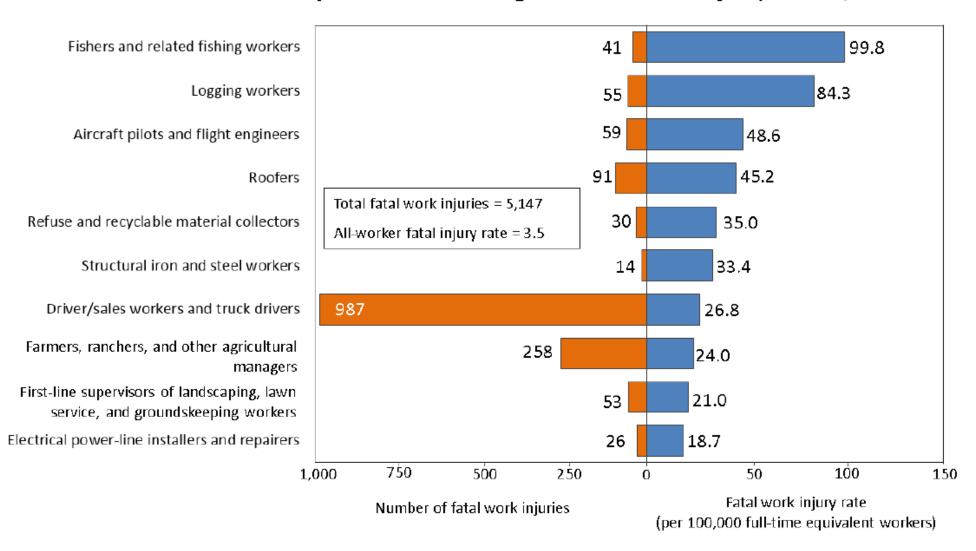
漁業者及び関連する漁業労働者並びに伐採労働者は、2017 年では公表された死亡労働災害発生率が最も高かったです(図3参照)

- ・ 公園保守作業員(第一線監督者を含む。)は2017年に244人の死者を出した。 これは2016年の数字(247)からわずかな減少でしたが、2003年以来2番 目に高い数値でした。合計36人の死亡は樹木からの墜落によるもので、他 の35人は樹木や枝の落下に打撃されたことによるものでした。
- 2017年に農家、牧場経営者、その他の農業経営者に 258 人の死亡者があり

managers in 2017. Approximately 63 percent of these farmers were age 65 and over (162) with 48 being age 80 or over. Of the 258 deaths, 103 involved a farm tractor.

- Police and sheriff's patrol officers incurred 95 fatal occupational injuries in 2017, fewer than the 108 fatalities in 2016.
- ました。これらの農家の約 63%は 65 歳以上 (162 人) で、48 人は 80 歳以上であった。 258 人の死者のうち、103 人が農業用トラクターに関連するものでした。
- 警察及び保安官の巡回官は、2017年に95人の死亡労働傷害を負ったが、2016年の108件(人)の死亡労働傷害よりは少なかたです。

# Chart 3. Civilian occupations with high fatal work injury rates, 2017



#### (図3に関する資料作成者注 1: 図3中の「Civilian occupations」についての英語原文—日本語仮訳を次の表に掲げた。)

英語原文	日本語仮訳
Fishers and related fishing workers	漁業及び漁業関連労働者
Logging workers	伐採労働者
Aircraft pilots and flight engineers	航空機パイロット及び航空機関士
Roofers	屋根職人
Refuse and recyclable material collectors	ごみ及びリサイクル可能な物質の収集人
Structural iron and steel workers	鉄構造物及び鉄鋼労働者
Driver/sales workers and truck drivers	運転者/ (自動車の) 販売労働者及びトラック運転者
Farmers, ranchers, and other agricultural managers	農業、牧場及びその他の農業経営者
First-line supervisors of landscaping, lawn service, and grounds	造園、芝生施工及び公園管理労働者の第一線監督者
keeping workers	
Electrical power-line installers and repair	電力設備配線設置者及び修理者

## Other key findings of the 2017 Census of Fatal Occupational 2017年の死亡労働災害調査の他の鍵となる知見 Injuries:

- · Fifteen percent of the fatally-injured workers in 2017 were age 65 or over – a series high. In 1992, the first year CFOI published national data, that figure was 8 percent. These workers also had a higher fatality rate than other age groups in 2017. (See table 1.)
- · Fatalities incurred by non-Hispanic Black or African American workers and non-Hispanic Asian workers each decreased 10 percent from 2016 to 2017.
- Fatal occupational injuries in the private manufacturing

- 2017年の死亡傷害を負った労働者の 15%が 65歳以上でした。1992年、CF0I (死亡労働災害調査) の全国データが公表された最初の年である 1992 年で は、その数値は8%でした。これらの労働者は、2017年には他の年齢層よ りも死亡率が高かったです (表1参照)。
- 非ヒスパニック系の黒人若しくはアフリカ系アメリカ人労働者及び非ヒス パニック系のアジア人労働者の死亡労働傷害者数は、2016年から2017年に かけて、それぞれ、10%減少しました。
- 民間製造業及び卸売業における死亡労働傷害は、この調査が 2003 年に開始

industry and wholesale trade industry were the lowest since this series began in 2003. (See table 4.)

- · Workplace fatalities in the private mining, quarrying, and oil and gas extraction industry increased 26 percent to 112 in 2017 from a series low of 89 in 2016. (See table 4.) Over 70 percent of these fatalities were incurred by workers in the oil and gas extraction industries.
- · A total of 27 states had fewer fatal workplace injuries in 2017 than 2016, while 21 states and the District of Columbia had more; California and Maine had the same number as 2016. (See table 5.) A total of 192 metropolitan statistical areas (MSAs) had 5 or more fatal work injuries in 2017.

されて以来、最も低い水準でした(表4参照)。

- ・ 民間鉱業、採石場、石油・ガス採掘産業における職場での死亡災害者数は、2017年には2人で、2016年には低い水準の89人だったのに対し、26%増加しました(表4参照)。 これらの死亡労働災害の70%を超える数が、石油・ガスの採掘産業の労働者で起こっていました。
- 2017 年には全体で 27 の州が 2016 年よりは死亡労働傷害数が少なく、一方 21 の州とコロンビア特別区ではより多くの死亡労働傷害がありました。 カリフォルニア州とメイン州は 2016 年と同数でした (表 5 参照さ)。 合計 192 の首都圏統計エリア (MSAs) は、2017 年に 5 件 (人) 又はそれ以上 の死亡労働傷害がありました。

#### TECHNICAL NOTES

#### Background of the program

The Census of Fatal Occupational Injuries (CFOI), part of the BLS Occupational Safety and Health Statistics (OSHS) program, compiles a count of all fatal work injuries occurring in the U.S. during the calendar year. The

CFOI program uses diverse state, federal, and independent data sources to identify, verify, and describe fatal work injuries. This ensures counts are as complete and accurate as possible. For the 2017 data, over 23,400 unique source documents were reviewed as part of the data collection process. For technical information and definitions for CFOI, please go to the BLS

#### 技術的覚書

#### 計画の背景

死亡労働災害調査 (CFOI) は、労働統計局の労働安全衛生統計 (OSHS)計画の一部であって、合衆国の暦年におけるすべての死亡労働災害の合計です。この死亡労働災害調査 (CFOI) 計画は、死亡労働災害を同定し、立証し、及び記述するために、様々な州、連邦及び独立したデータソースを使用しています。このことは、可能な限り、集計が完全かつ正確であることを保障しています。2017年データについては、23,400以上の類のない情報源となる資料が、データ収集過程の一部として再調査されました。死亡労働災害調査 (CFOI) の技術情報及び定義については、労働統計局ウェブサイト:

www.bls.gov/opub/hom/cfoi/home.htm.で、労働統計局方法論ハンドブックを参

Handbook of Methods on the BLS website at www.bls.gov/opub/hom/cfoi/home.htm. Fatal injury rates are subject to sampling errors as they are calculated using employment data from the Current Population Survey (CPS), a sample of households, and the BLS Local Area Unemployment Statistics (LAUS) program. For more information on measurement errors, please see: www.bls.gov/iif/osh\_rse.htm.For more information on measurement errors, please see:

www.bls.gov/iif/osh\_rse.htm.

The Survey of Occupational Injuries and Illnesses (SOII), another component of the OSHS program, presents frequency counts and incidence rates by industry and also by detailed case circumstances and worker characteristics for nonfatal workplace injuries and illnesses for cases that result in days away from work. Incidence rates by industry and case type and information on case circumstances and worker characteristics for 2017were published in November 2018. For additional data, access the BLS website: <a href="https://www.bls.gov/iif">www.bls.gov/iif</a>.

#### Identification and verification of work-related fatalities

In\_2017, there were 12 fatal work injuries included for which work relationship could not be independently verified; however, the information on the initiating source document for these cases was sufficient to determine that the incident was likely to be job-related. Data for these fatalities were included in the CFOI counts.

#### Federal/State agency coverage

照してください。死亡災害発生率は、現在の人口調査 (CPS) からの雇用のデータ所帯のサンプル及び労働統計局の地方失業統計(LAUS)プログラムを使用して計算されるので、サンプリング誤差を受けています。測定誤差のさらなる説明については、www.bls.gov/iif/osh rse.htm をご覧いただきたい。

労働安全衛生調査のもう一つの構成要素である職業傷害及び疾病調査(S0II)、結果として職場からの休業日を必要とする非致死的な作業場での傷害及び疾病についての産業別及びさらに詳細な案件の状況及び労働者の特質別に、頻度の統計及び発生率を提供しています。2017年の産業別及び事案の型別の発生率並びに事案の状況及び労働者の特質に関する情報は、2018年11月に発表されました。追加のデータについては、労働統計局のウェブサイト: www.bls.gov/iif/にアクセスしていただきたい。

#### 作業関連の死亡災害の同定及び立証性

2017 年においては、作業との関連が独立して立証できなかった 12 の事案が含まれていたが、これらのケースの発端となった情報源の資料は、その事象が作業関連である可能性があったことを決定するために十分なものであった。これらの死亡災害のデータは、死亡労働災害調査 (CFOI)集計に含まれていました。

#### 連邦/州の機関の集計範囲

The CFOI includes data for all fatal work injuries, even those that may be outside the scope of other agencies or regulatory coverage. Thus, any comparison between the BLS fatality census counts and those released by other agencies should take into account the different coverage requirements and definitions being used by each agency. More on the scope of CFOI can be found at <a href="www.bls.gov/iif/cfoiscope.htm">www.bls.gov/opub/hom/cfoi/concepts.htm</a> and <a href="www.bls.gov/opub/hom/cfoi/concepts.htm">www.bls.gov/opub/hom/cfoi/concepts.htm</a> .

#### Acknowledgements

BLS thanks the participating states, New York City, the District of Columbia, Puerto Rico, the U.S. Virgin Islands, and Guam for their efforts in collecting accurate, comprehensive, and useful data on fatal work injuries. Although data for Puerto Rico, the U.S. Virgin Islands, and Guam are not included in the national totals for this release, results for these jurisdictions are available. Participating agencies may be contacted to request more detailed state results. Contact information is available at <a href="https://www.bls.gov/iif/oshstate.htm">www.bls.gov/iif/oshstate.htm</a>.

BLS also appreciates the efforts of all federal, state, local, and private sector entities that provided source documents used to identify fatal work injuries. Among these agencies are the Occupational Safety and Health Administration; the National Transportation Safety Board; the U.S. Coast Guard; the Mine Safety and Health Administration; the Office of Workers'

死亡労働災害調査 (CFOI) は、他の機関や、法的な管轄によってカバーされていないものも含め、すべての労働死亡災害を含んでいます。したがって、労働統計局の死亡災害調査統計と他の機関で発表された統計との比較する際には必ず、異なる管轄の要求事項及び個別の機関で用いられた定義を考慮に入れなければなりません。

さらに、職業上の死亡災害調査(CFOI)の適用の範囲は、

www.bls.gov/iif/cfoiscope.htm

及び

<u>www.bls.gov/opub/hom/cfoi/concepts.htm</u> で見い出すことができます。

#### 謝辞

労働統計局は、参画し州、ニューヨーク市、コロンビア特別区、プエルトリコ、合衆国バージン諸島及びグアムの死亡労働災害に関する正確で、包括的かつ有益なデータの収集における努力に感謝しまるプエルトリコ、合衆国バージン諸島及びグアムについてのデータは、この発表の全国集計には含まれていませんが、これらの領域での結果は、利用可能です。参画し機関に対しては、より詳細なデータを要求するため接触することができます。連悪先は、www.bls.gov/iif/oshstate.htmで入手可能です。

労働統計局は、さらに、死亡労働災害の特定のために用いられた情報源を提供したすべての連邦、州、地方及び民間部門の機関の努力に感謝しまず。その機関とは、労働安全衛生局、国家運輸安全委員会、合衆国沿岸警備隊、鉱業労働安全衛生局、労働者の補償プログラム事務所(連邦被雇用者補償並びに沿岸及び港湾労働者補償部門)、連邦鉄道庁、国家高速道路安全局、州の死亡統計登録官、検視

Compensation Programs (Federal Employees' Compensation and Longshore and Harbor Workers' Compensation divisions); the Federal Railroad Administration; the National Highway Traffic Safety Administration; state vital statistics registrars, coroners, and medical examiners; state departments of health, labor, and industrial relations and workers' compensation agencies; state and local police departments; and state farm bureaus.

官、医学検査官、州の保健、労働並びに産業関係及び労働者補償機関、州及び地方の警察部局、州農場局です。

Information in this release is available to sensory-impaired individuals. Voice phone: (202) 691-5200; Federal Relay Service: (800) 877-8339.

この発表における情報は、知覚障害のある個人に対しても利用可能である。音声 電話は、(202) 691-5200、連邦リレイサービスは、(800) 877-8339 です。

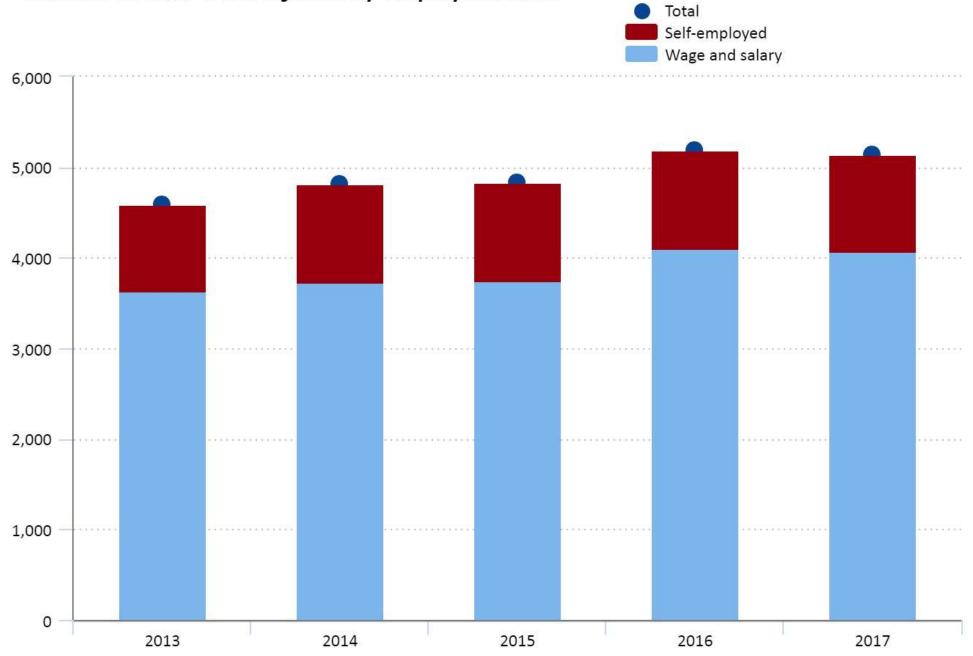
#### (資料作成者注)

1以下の 19~46 ページには、原典: Graphics for Economic News Releases:

https://www.bls.gov/charts/census-of-fatal-occupational-injuries/number-of-fatal-work-injuries-by-employee-status-self-employed-wage-salary.htm# さらにその延長上のウェブサイトアドレスで公表されている図及びそれぞれの図に関連している表をそのまま引用して収載した。これらの日本語への仮訳は、行わなかった。

2 原典の Table  $1 \sim 5$  については、次の  $47 \sim 58$  ページに収載した。これらの表の日本語への仮訳は、行わなかった。

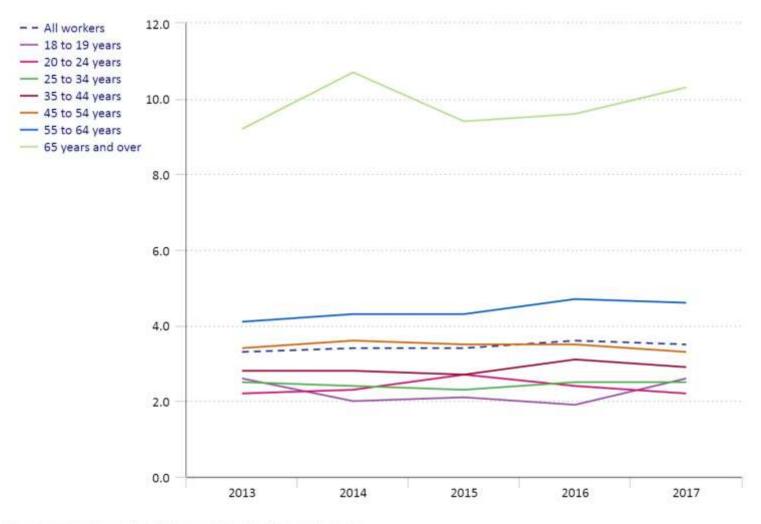
# Number of fatal work injuries by employee status





Number of fatal work injuries by employee status				
Year	Total Self-employed		Wage and salary	
2013	4,585	950	3,635	
2014	4,821	1,093	3,728	
2015	4,836	1,085	3,751	
2016	5,190	1,092	4,098	
2017	5,147	1,078	4,069	

## Rate of fatal work injuries per 100,000 full-time equivalent workers by age

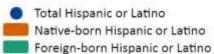


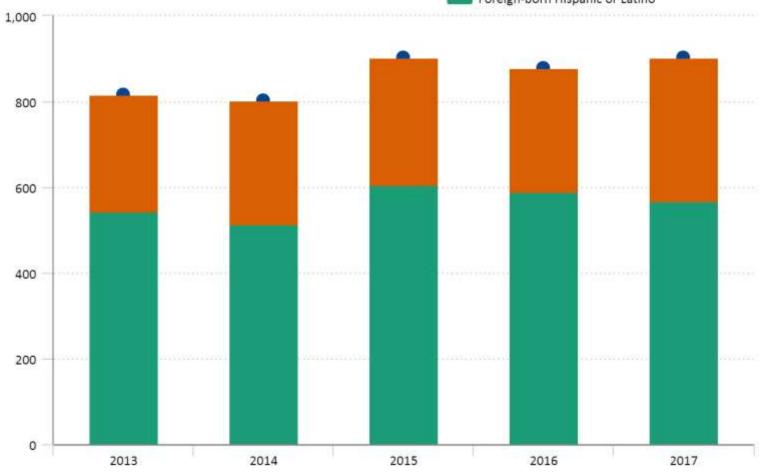
Hover over chart to view data. Click legend items to change data display. Source: U.S. Bureau of Labor Statistics.



Rate	Rate of fatal work injuries per 100,000 full-time equivalent workers by age							
Year	All workers	18 to 19 years	20 to 24 years	25 to 34 years	35 to 44 years	45 to 54 years	55 to 64 years	65 years and over
2013	3.3	2.6	2.2	2.5	2.8	3.4	4.1	9.2
2014	3.4	2.0	2.3	2.4	2.8	3.6	4.3	10.7
2015	3.4	2.1	2.7	2.3	2.7	3.5	4.3	9.4
2016	3.6	1.9	2.4	2.5	3.1	3.5	4.7	9.6
2017	3.5	2.6	2.2	2.5	2.9	3.3	4.6	10.3

# Fatal work injuries to Hispanic or Latino workers



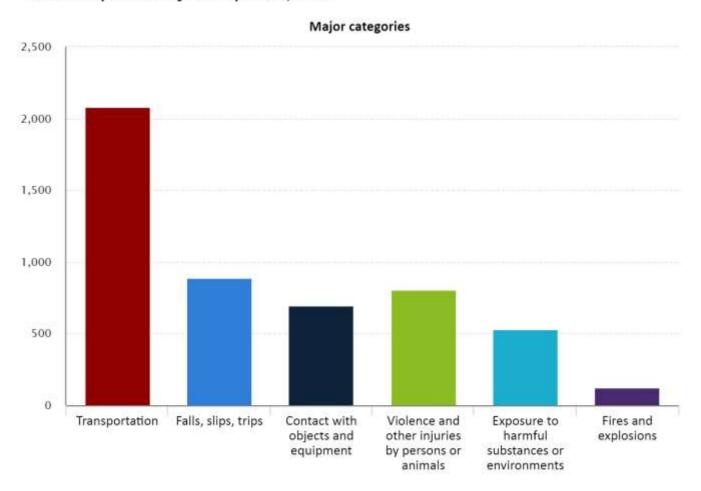


Hover over chart to view data. Click legend items to change data display. Source: U.S. Bureau of Labor Statistics.



Fatal work injuries to Hispanic or Latino workers			
Year	Total Hispanic or Latino	Native-born Hispanic or Latino	Foreign-born Hispanic or Latino
2013	817	275	542
2014	804	291	513
2015	903	298	605
2016	879	291	588
2017	903	335	568

### Fatal occupational injuries by event, 2017



Click columns to drill down. Hover over chart to view data. Source: U.S. Bureau of Labor Statistics.



Fatal occupational injuries by event, 2017		
Event	Number of fatal occupational injuries	
Transportation	2,077	
Aircraft	126	
Pedestrian struck by aircraft or propeller		
Aircraft crash during takeoff or landing	35	
Explosion or fire on aircraft		
Aircraft crash due to low-altitude entanglement	2	
Other in-flight crash	79	
Parachuting incident	6	
Fall on aircraft during transport		
Rail vehicle	48	
Collision between rail vehicle and another vehicle	33	
Derailment	1	
Explosion or fire on rail vehicle, transportation		
Fall or jump from and struck by rail vehicle, transportation	4	
Fall or jump from rail vehicle, transportation	1	
Fall on rail vehicle, transportation		
Pedestrian struck by rail vehicle, transportation	7	
Animal and other non-motorized vehicle transportation	10	

Fatal occupational injuries by event, 2017		
Event	Number of fatal occupational injuries	
Animal transportation	6	
Pedal cycle	4	
Pedestrian vehicular	313	
Pedestrian struck by vehicle in work zone	56	
Pedestrian struck by vehicle in roadway	71	
Pedestrian struck by vehicle on side of road	50	
Pedestrian struck by vehicle in nonroadway area	125	
Water vehicle	68	
Water vehicle or propeller struck person	1	
Water vehicle collisions	6	
Explosion or fire on water vehicle	2	
Capsized or sinking water vehicle	24	
Fall or jump and struck by water vehicle	1	
Fall or jump from water vehicle	25	
Machinery or equipment incident on water vehicle	3	
Fall on water vehicle	3	
Roadway incidents involving motorized land vehicle	1,299	
Roadway collision with other vehicle	663	

Fatal occupational injuries by event, 2017		
Event	Number of fatal occupational injuries	
Roadway collision with object other than vehicle	377	
Roadway noncollision incident	252	
Nonroadway incidents involving motorized land vehicles	209	
Nonroadway collision with other vehicle	15	
Nonroadway collisions with object other than vehicle	27	
Nonroadway noncollision incident	166	
Falls, slips, trips	887	
Slip or trip without fall	4	
Slip without fall		
Trip without fall		
Falls on same level	151	
Fall on same level due to tripping	31	
Fall on same level due to slipping	21	
Fall while sitting	4	
Fall onto or against object on same level, n.e.c.	9	
Falls to lower level	713	
Fall from collapsing structure or equipment	48	
Fall through surface or existing opening	85	

Fatal occupational injuries by event, 2017		
Event	Number of fatal occupational injuries	
Other fall to lower level	562	
Jumps to lower level	4	
Jump from collapsing structure or equipment		
Other jump to lower level	4	
Fall or jump curtailed by personal fall arrest system		
Contact with objects and equipment	695	
Needlestick without exposure to harmful substance		
Struck by object or equipment	503	
Struck by powered vehicle, nontransport	197	
Struck by rolling object or equipment, other than powered vehicle	9	
Struck by falling object or equipment, other than powered vehicle	237	
Struck by discharged or flying object	28	
Injured by handheld object or equipment	9	
Struck by swinging or slipping object, other than handheld	11	
Struck against object or equipment	8	
Struck against moving object or equipment		
Struck against stationary object or equipment	5	
Caught in or compressed by equipment or objects	108	

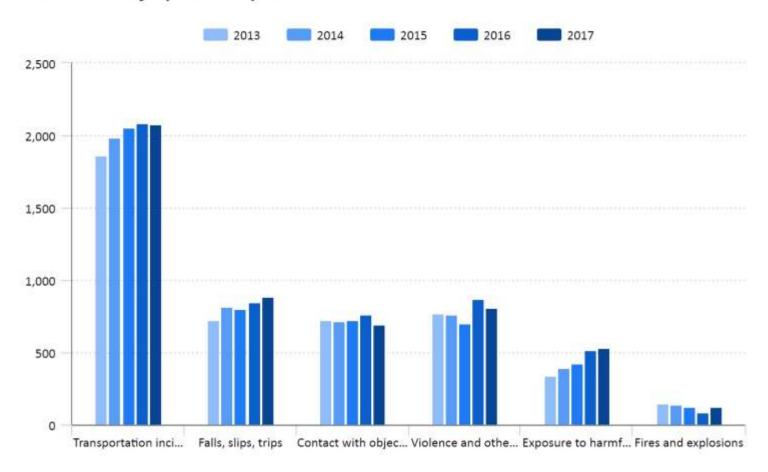
Fatal occupational injuries by event, 2017		
Event	Number of fatal occupational injuries	
Caught in running equipment or machinery	76	
Compressed or pinched by shifting objects or equipment	8	
Compressed or pinched between two stationary objects		
Entangled in other object or equipment		
Struck, caught, or crushed in collapsing structure, equipment, or material	70	
Excavation or trenching cave-in	23	
Mine collapse or cave-in	4	
Other cave-in		
Landslide		
Struck, caught, or crushed in other collapsing structure or equipment	22	
Engulfment in other collapsing material	16	
Rubbed or abraded by friction or pressure		
Rubbed or abraded by kneeling on surface		
Rubbed or abraded by objects being handled		
Rubbed or abraded by foreign matter in eye		
Rubbed or abraded by shoes, apparel, or accessories		
Rubbed, abraded, or jarred by vibration		
Rubbed, abraded, or jarred by vehicle or mobile equipment vibration		

### Fatal occupational injuries by event, 2017 Number of fatal occupational injuries **Event** Rubbed, abraded, or jarred by other machine or equipment vibration Violence and other injuries by persons or animals 807 Intentional injury by person 733 Intentional injury by other person 458 Self-inflicted injury, intentional 275 Injury by person, unintentional or intent unknown 28 Injury by other person, unintentional or intent unknown 24 Self-inflicted injury, unintentional or intent unknown **Animal and insect related incidents** 46 Bites and stings 17 Struck by animal 28 Multiple types of animal and insect incidents **Exposure to harmful substances or environments** 531 **Exposure to electricity** 136 **Direct exposure to electricity** 79 Indirect exposure to electricity 55 **Exposure to radiation and noise Exposure to light and other radiation Exposure to noise**

Fatal occupational injuries by event, 2017					
Event	Number of fatal occupational injuries				
Exposure to temperature extremes	38				
Exposure to environmental heat	32				
Exposure to environmental cold	3				
Contact with hot objects or substances	3				
Contact with cold objects or substances					
Exposure to air and water pressure change					
Exposure to change in water pressure					
Exposure to change in air pressure					
Exposure to other harmful substances	317				
Nonmedical use of drugs or alcohol, unintentional overdose	272				
Inhalation of harmful substance	43				
Ingestion of harmful substance					
Exposure to harmful substance through skin, eyes, or other exposed tissue					
Exposure to other harmful substance, multiple routes of exposure					
Exposure to oxygen deficiency, n.e.c.	39				
Drowning, submersion, n.e.c.	27				
Choking on object or substance	10				
Depletion of oxygen					
Exposure to traumatic or stressful event, n.e.c.					

Fatal occupational injuries by event, 2017				
Event	Number of fatal occupational injuries			
Fires and explosions	123			
Fires	38			
Collapsing building, structure, or structural element during fire	3			
Other structural fire without collapse	14			
Vehicle or machinery fire	3			
Ignition of clothing from controlled heat source	3			
Small-scale (limited) fire				
Forest or brush fire	7			
Ignition of vapors, gases, or liquids	5			
Explosions	85			
Dust explosion	6			
Explosion of nonpressurized vapors, gases, or liquids	28			
Explosion of pressure vessel, piping, or tire	41			
Demolition or blasting explosion				

## Fatal work injury counts by event

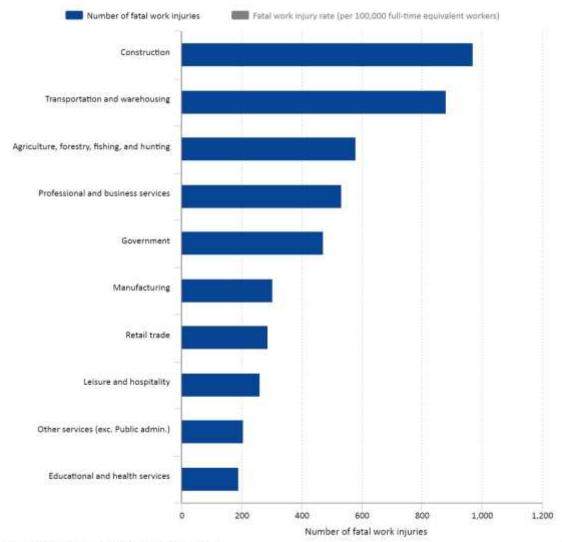


Hover over chart to view data. Click legend items to change data display, Source: U.S. Bureau of Labor Statistics.



Fatal work injury counts by event						
Event	2013	2014	2015	2016	2017	
Transportation incidents	1,865	1,984	2,054	2,083	2,077	
Falls, slips, trips	724	818	800	849	887	
Contact with objects and equipment	721	715	722	761	695	
Violence and other injuries by persons or animals	773	765	703	866	807	
Exposure to harmful substances or environments	335	390	424	518	531	
Fires and explosions	149	137	121	88	123	

#### Number and rate of fatal work injuries, by industry sector, 2017

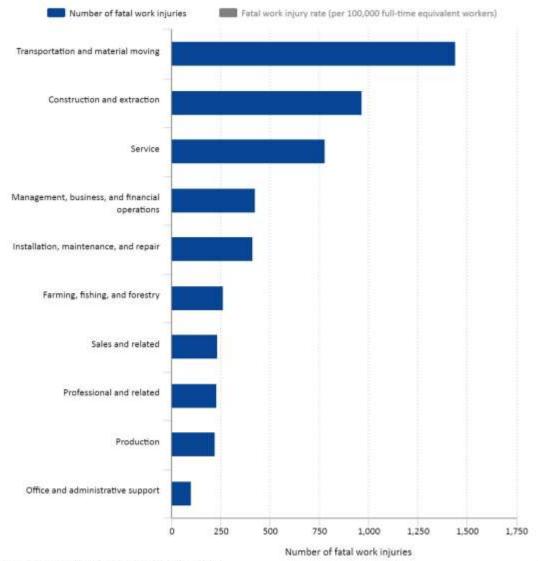


Hover over chart to view data. Click legend to change data display. Source: U.S. Bureau of Labor Statistics.



Number and rate of fatal work injuries, by industry sector, 2017						
Industry	Number of fatal work injuries	Fatal work injury rate (per 100,000 full-time equivalent workers)				
Construction	971	9.5				
Transportation and warehousing	882	15.1				
Agriculture, forestry, fishing, and hunting	581	23				
Professional and business services	532	3				
Government	473	2				
Manufacturing	303	1.9				
Retail trade	287	2				
Leisure and hospitality	262	2.2				
Other services (exc. Public admin.)	205	2.9				
Educational and health services	189	0.8				

#### Number and rate of fatal work injuries, civilian workers, by major occupational group, 2017

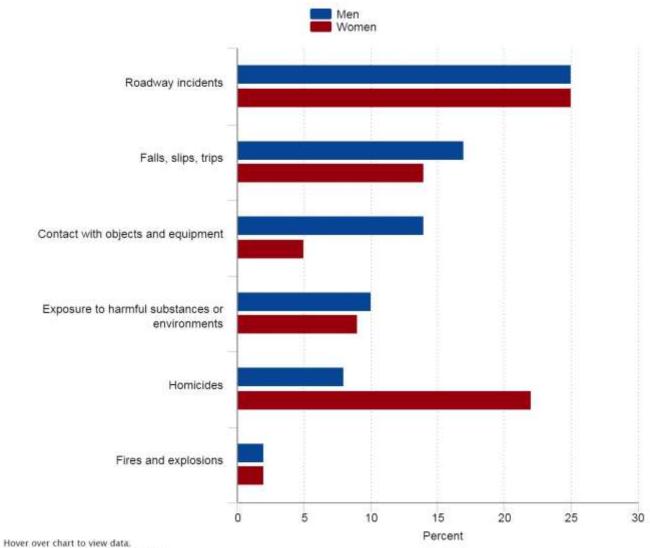


Hover over chart to view data, Click legend to change data display. Source: U.S. Bureau of Labor Statistics.



Number and rate of fatal work injuries, civilian workers, by major occupational group, 2017					
Occupation	Number of fatal work injuries	Fatal work injury rate (per 100,000 full-time equivalent workers)			
Transportation and material moving	1,443	15.9			
Construction and extraction	965	12.2			
Service	778	3.3			
Management, business, and financial operations	425	1.6			
Installation, maintenance, and repair	414	8.1			
Farming, fishing, and forestry	264	20.9			
Sales and related	232	1.6			
Professional and related	229	0.7			
Production	221	2.6			
Office and administrative support	101	0.6			

# Distribution of fatal injury events by sex of worker, 2017

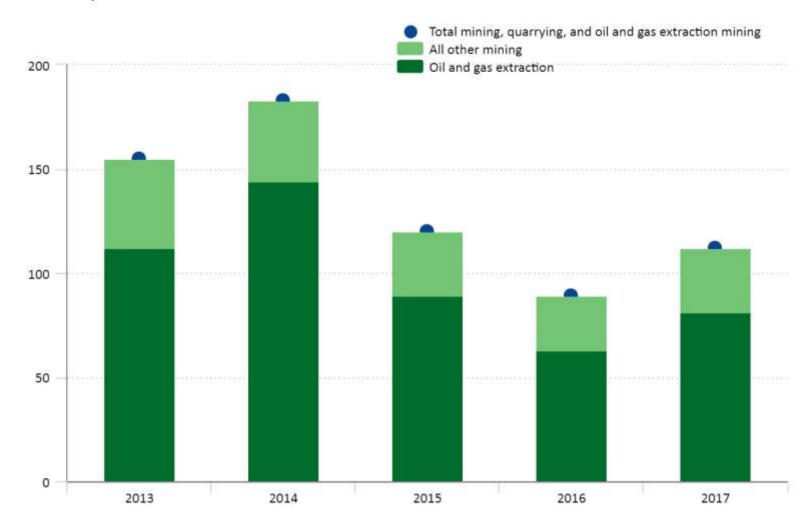


Source: U.S. Bureau of Labor Statistics.



Distribution of fatal injury events by sex of worker, 2017				
Event	Men	Women		
Roadway incidents	25	25		
Falls, slips, trips	17	14		
Contact with objects and equipment	14	5		
Exposure to harmful substances or environments	10	9		
Homicides	8	22		
Fires and explosions	2	2		

# Fatal occupational injuries in the private sector mining, quarrying, and oil and gas extractio industry



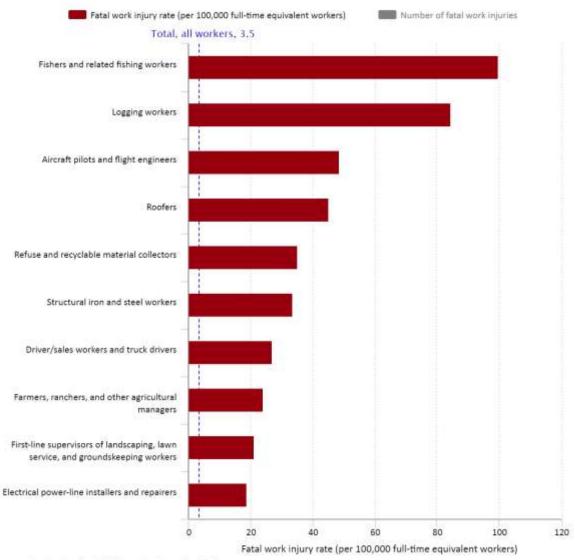
Hover over chart to view data. Click legend items to change data display. Source: U.S. Bureau of Labor Statistics.



Fatal oc	Fatal occupational injuries in the private sector mining, quarrying, and oil and gas extraction industry						
Year	Total mining, quarrying, and oil and gas extraction mining	All other mining	Oil and gas extraction				
2013	155	43	112				
2014	183	39	144				
2015	120	31	89				
2016	89	26	63				
2017	112	31	81				

Oil and gas extraction industries include oil and gas extraction (NAICS 21111), drilling oil and gas wells (NAICS 213111), and support activities for oil and gas operations (NAICS 213112).

#### Civilian occupations with high fatal work injury rates, 2017

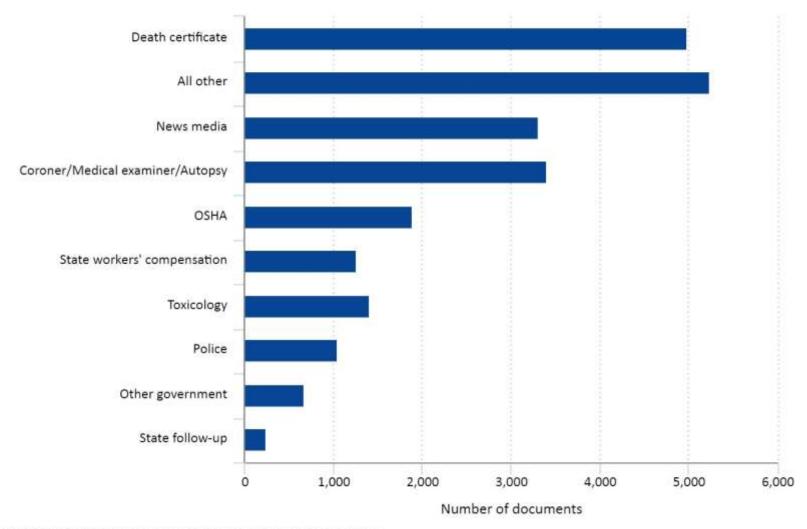


Hover over chart to view data. Click legend to change data display. Source: U.S. Bureau of Labor Statistics.



Civilian occupations with high fatal work injury rates, 2017					
	Fatal work injury rate (per 100,000 full-time Number of fa				
Occupation	equivalent workers)	injuries			
All workers	3.5				
Fishers and related fishing workers	99.8	41			
Logging workers	84.3	55			
Aircraft pilots and flight engineers	48.6	59			
Roofers	45.2	91			
Refuse and recyclable material collectors	35.0	30			
Structural iron and steel workers	33.4	14			
Driver/sales workers and truck drivers	26.8	987			
Farmers, ranchers, and other agricultural managers	24.0	258			
First-line supervisors of landscaping, lawn service, and groundskeeping workers	21.0	53			
Electrical power-line installers and repairers	18.7	26			

# Sources of data on fatal work injuries, 2017



Click legend items to change data display. Hover over chart to view data. Source: U.S. Bureau of Labor Statistics.



Sources of data on fatal work injuries, 2017				
Source	Number of documents			
Death certificate	4,987			
All other	5,238			
News media	3,304			
Coroner/Medical examiner/Autopsy	3,400			
OSHA	1,886			
State workers' compensation	1,265			
Toxicology	1,401			
Police	1,051			
Other government	671			
State follow-up	238			



# (資料作成者注:原典の Table 1~5 については、次に収載した。)

# ○資料作成者注:以下の表1から5までについては、日本語の仮訳を作成しなかったが、これらの表の標題についての英語原文―日本語仮訳を次の表に掲げた。

英語原文	日本語仮訳
Table 1. Fatal occupational injuries counts and rates by selected	表 1. 選択された人口統計的な特徴別の死亡労働災害数及び発生率、2016-17
demographic characteristics, 2016-17	
Table 2. Fatal occupational injuries for selected events or exposures,	表 2. 選択された事象又はばく露別の死亡労働災害、2011-17
2011-17	
Table 3. Fatal occupational injuries counts and rates for selected	表 3. 選択された職業別の死亡労働災害数及び発生率、2016-17
occupations, 2016-17	
Table 4. Fatal occupational injuries counts and rates by selected	表 4. 選択された産業別の死亡労働災害数及び発生率、2016-17
industries, 2016-17	
Table 5. Fatal occupational injuries counts and rates by state of	表 5 事象の州別の死亡労働災害数及び発生率、2015-17
incident, 2016-17	

Table 1. Fatal occupational injuries counts and rates by selected demographic characteristics, 2016-17

	Cour	Counts		s <sup>1</sup>	Rates Margin of Error <sup>2</sup>	
Characteristic	2016	2017	2016	2017	2016	2017
Total <sup>3</sup>	5,190	5,147	3.6	3.5	0.0	0.0
Employee status		- 1				
Wage and salary workers <sup>4</sup>	4,098	4,069	3.0	2.9	0.0	0.0
Self-employed <sup>5</sup>	1,092	1,078	13.1	13.1	0.3	0.3
Gender		- 1				
Women	387	386	0.6	0.6	0.0	0.0
Men	4,803	4,761	5.8	5.7	0.0	0.0
Age		- 1	20		ye.	
Under 16 years	13	15	N/A	N/A	N/A	N/A
16 to 17 years	17	7	2.1	0.8	0.1	0.0
18 to 19 years	43	62	1.9	2.6	0.1	0.1
20 to 24 years	310	293	2.4	2.2	0.0	0.0
25 to 34 years	834	872	2.5	2.5	0.0	0.0
35 to 44 years	979	907	3.1	2.9	0.0	0.0
45 to 54 years	1,145	1,059	3.5	3.3	0.0	0.0
55 to 64 years	1,160	1,155	4.7	4.6	0.0	0.0
65 years and over	688	775	9.6	10.3	0.2	0.2
Race or ethnic origin <sup>6</sup>		- 1				
White (non-Hispanic)	3,481	3,449	3.7	3.6	0.0	0.0
Black or African-American (non-Hispanic)	587	530	3.6	3.2	0.0	0.0
Hispanic or Latino	879	903	3.7	3.7	0.0	0.0
American Indian or Alaskan Native (non-Hispanic)	38	38	N/A	N/A	N/A	N/A
Asian (non-Hispanic)	160	144	1.8	1.6	0.0	0.0
Native Hawaiian or Pacific Islander (non-Hispanic)	7	17	N/A	N/A	N/A	N/A
Multiple races (non-Hispanic)	15	9	N/A	N/A	N/A	N/A
Other races or not reported (non-Hispanic)	23	57	N/A	N/A	N/A	N/A

#### (資料作成者注: Table 1の脚注)

1 Fatal injury rates are per 100,000 full-time equivalent workers (FTEs). Fatal injury rates exclude workers under the age of 16 years, volunteers, and resident military. Complete national rates can be found at www.bls.gov/iif/oshstate.htm. National and state rates are calculated using different methodology and cannot be directly compared. Please see www.bls.gov/iif/oshfaq1.htm#q16 for more information on how rates are calculated and caveats for comparison. N/A means a rate was not published for this group.

Note: Data for all years are final. Totals for major categories may include subcategories not shown separately. CFOI fatal injury counts exclude illness-related deaths unless precipitated by an injury event.

Source: U.S. Bureau of Labor Statistics, Current Population Survey, Census of Fatal Occupational Injuries

<sup>&</sup>lt;sup>2</sup> Fatal injury rates rely on the census figures from the CFOI and the employment from the Current Population Survey (CPS). CPS is a sample of households that is designed to represent the civilian noninstitutional population of the United States. Sampling errors occur in the CPS because observations are made on a sample, not on the entire population. The margin of error (MOE) is a measure of dispersion around the estimated fatal injury rate, expressed at the 95% confidence level. For more on confidence intervals, see https://www.bls.gov/iif/osh\_rse.htm.

<sup>&</sup>lt;sup>3</sup> The Census of Fatal Occupational Injuries (CFOI) has published data on fatal occupational injuries for the United States since 1992. During this time, the classification systems and definitions of many data elements have changed. Please see the CFOI Definitions page (www.bls.gov/iif/oshcfdef.htm) for a more detailed description of each data element and their definitions.

<sup>&</sup>lt;sup>4</sup> May include volunteers and workers receiving other types of compensation.

<sup>.5</sup> Includes self-employed workers, owners of unincorporated businesses and farms, paid and unpaid family workers, and may include some owners of incorporated businesses or members of partnerships.

<sup>&</sup>lt;sup>6</sup> Persons identified as Hispanic or Latino may be of any race. The race categories shown exclude data for Hispanics and Latinos.

Table 2. Fatal occupational injuries for selected events or exposures, 2011-17

	Counts						
Characteristic	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
Total <sup>1</sup>	4,693	4,628	4,585	4,821	4,836	5,190	5,14
Event or exposure	1 1		- 1				
Violence and other injuries by persons or animals	791	803	773	765	703	866	807
Intentional injury by person	718	725	686	689	646	792	733
Homicides	468	475	404	409	417	500	458
Shooting by other person—intentional	365	381	322	307	354	394	351
Stabbing, cutting, slashing, piercing	42	35	38	40	28	38	47
Suicides	250	249	282	280	229	291	275
Transportation incidents	1,937	1,923	1,865	1,984	2,054	2,083	2,077
Aircraft incidents	145	127	136	135	139	130	126
Rail vehicle incidents	50	38	41	57	50	50	48
Pedestrian vehicular incident	316	293	294	318	289	342	313
Pedestrian struck by vehicle in work zone	63	65	48	53	44	58	56
Water vehicle incident	72	63	60	55	44	48	68
Roadway incident involving motorized land vehicle	1,103	1,153	1,099	1,157	1,264	1,252	1,299
Roadway collision with other vehicle	525	565	564	611	660	628	663
Roadway collision moving in same direction	150	124	144	146	166	168	189
Roadway collision moving in opposite directions, oncoming	172	204	192	230	224	199	214
Roadway collision moving perpendicularly	111	134	136	131	154	150	149
Roadway collision with object other than vehicle	313	338	332	317	360	342	377
Vehicle struck object or animal on side of roadway	292	318	311	292	335	321	348
Roadway noncollision incident	262	247	201	228	240	278	252
Jack-knifed or overturned, roadway	208	202	171	193	201	238	197
Nonroadway incident involving motorized land vehicle	222	233	227	248	253	245	209
Nonroadway noncollision incident	169	175	181	191	182	182	166
Jack-knifed or overturned, nonroadway	113	115	118	127	131	120	111
Fire or explosion	144	122	149	137	121	88	123
Fall, slip, trip	681	704	724	818	800	849	887
Fall on same level	111	120	110	138	125	134	151
Fall to lower level	553	570	595	660	648	697	713
Fall from collapsing structure or equipment	38	35	45	44	55	65	48
Fall through surface or existing opening	60	72	68	82	87	87	85
Exposure to harmful substances or environments	419	340	335	390	424	518	531
Exposure to electricity	174	156	141	154	134	154	136
Exposure to temperature extremes	63	41	38	26	40	48	38
Exposure to other harmful substances	144	110	124	182	215	268	317
Nonmedical use of drugs or alcohol unintentional overdose	73	65	82	114	165	217	272
Inhalation of harmful substance	57	40	39	59	45	39	43
Contact with objects and equipment	710	723	721	715	722	761	695
Struck by object or equipment	476	519	509	503	519	553	503
Struck by powered vehicle nontransport	196	201	197	202	216	232	197
Struck by falling object or equipment	219	241	245	243	247	255	237
Caught in or compressed by equipment or objects	145	124	131	132	99	117	108
Caught in running equipment or machinery	118	93	105	105	74	103	76
Struck, caught, or crushed in collapsing structure, equipment, or material	84	73	78	74	90	82	70

#### (資料作成者注: Table 2の脚注)

<sup>1</sup> The Census of Fatal Occupational Injuries (CFOI) has published data on fatal occupational injuries for the United States since 1992. During this time, the classification systems and definitions of many data elements have changed. Please see the CFOI Definitions page (www.bls.gov/iif/oshcfdef.htm) for a more detailed description of each data element and their definitions. Event or exposure is based on the BLS Occupational Injury and Illness Classification System (OIICS) 2.01 implemented for 2011 data forward.

Note: Data for all years are final. Totals for major categories may include subcategories not shown separately. CFOI fatal injury counts exclude illness-related deaths unless precipitated by an injury event.

Source: U.S. Department of Labor, Bureau of Labor Statistics, Census of Fatal Occupational Injuries

Table 3. Fatal occupational injuries counts and rates for selected occupations, 2016-17

	Counts		Rate	s¹	Rates Margin of Error <sup>2</sup>	
Characteristic	2016	2017	2016	2017	2016	2017
Total <sup>3</sup>	5,190	5,147	3.6	3.5	0.0	0.0
Occupation (SOC)	~ (DCVXXX	21.30.50 4.00 4	(040,000)		2000	
Management occupations	377	396	2.0	2.1	0.0	0.0
Business and financial operations occupations	27	29	0.4	0.4	0.0	0.0
Computer and mathematical occupations	16	11	0.3	0.2	0.0	0.0
Architecture and engineering occupations	41	23	1.3	0.7	0.0	0.0
Life, physical, and social science occupations	15	13	1.1	0.9	0.1	0.1
Community and social services occupations	27	37	1.0	1.4	0.0	0.1
Legal occupations	13	11	N/A	0,6	N/A	0.0
Education, training, and library occupations	32	30	0.4	0,4	0.0	0.0
Arts, design, entertainment, sports, and media occupations	64	47	2.3	1.6	0.1	0.1
Healthcare practitioners and technical occupations	60	57	0.7	0.6	0.0	0.0
Healthcare support occupations	30	28	1.0	0.9	0.0	0.0
Protective service occupations	281	266	8.4	7.7	0.3	0.3
Fire fighting and prevention workers	35	35	N/A	N/A	N/A	N/A
Law enforcement workers	127	117	N/A	N/A	N/A	N/A
Food preparation and serving related occupations	92	89	1.3	1.4	0.0	0.0
Building and grounds cleaning and maintenance occupations	329	326	6.6	6.4	0.2	0.2
Building cleaning and pest control workers	74	68	N/A	N/A	N/A	N/A
Grounds maintenance workers	217	191	17.4	15.5	1.0	0.9
Personal care and service occupations	55	69	1.1	1.2	0.0	0.0
Sales and related occupations	254	232	1.8	1.6	0.0	0.0
Supervisors, sales workers	104	98	N/A	N/A	N/A	N/A
Retail sales workers	102	89	N/A	N/A	N/A	N/A
Office and administrative support occupations	78	101	0.5	0.6	0.0	0.0
Farming, fishing, and forestry occupations	290	264	24.9	20.9	2.0	1.9
Agricultural workers	157	155	N/A	N/A	N/A	N/A
Fishing and hunting workers	26	41	N/A	N/A	N/A	N/A
Forest, conservation, and logging workers	95	57	N/A	N/A	N/A	N/A
Construction and extraction occupations	970	965	12.4	12.2	0.3	0.3
Supervisors of construction and extraction workers	134	121	18.0	17.4	1.2	1.2
Construction trades workers	736	747	N/A	N/A	N/A	N/A
Extraction workers	41	41	N/A	N/A	N/A	N/A
Installation, maintenance, and repair occupations	470	414	9.4	8.1	0.2	0.2
Vehicle and mobile equipment mechanics, installers, and repairers	154	143	N/A	N/A	N/A	N/A
Production occupations	216	221	2.6	2.6	0.1	0.1
Transportation and material moving occupations	1,388	1,443	15.4	15.9	0.1	0.4
Air transportation workers	75	59	N/A	N/A	N/A	N/A
Motor vehicle operators	1,012	1,084	N/A	N/A	N/A	N/A
Material moving workers	228	235	N/A	N/A	N/A	N/A
				30200	500000	37703
Military occupations*	62	72	N/A	N/A	N/A	N/A

#### (資料作成者注: Table 3の脚注)

Note: Data for all years are final. Totals for major categories may include subcategories not shown separately. CFOI fatal injury counts exclude illness-related deaths unless precipitated by an injury event.

Source: U.S. Bureau of Labor Statistics, Current Population Survey, Census of Fatal Occupational Injuries

<sup>&</sup>lt;sup>1</sup> Fatal injury rates are per 100,000 full-time equivalent workers (FTEs). Fatal injury rates exclude workers under the age of 16 years, volunteers, and resident military. Complete national rates can be found at www.bls.gov/iif/oshcfoi1.htm#rates. Complete state rates can be found at www.bls.gov/iif/oshstate.htm. National and state rates are calculated using different methodology and <u>cannot</u> be directly compared. Please see www.bls.gov/iif/oshfaq1.htm#q16 for more information on how rates are calculated and caveats for comparison. N/A means a rate was not published for this group.

<sup>&</sup>lt;sup>2</sup> Fatal injury rates rely on the census figures from the CFOI and the employment from the Current Population Survey (CPS). CPS is a sample of households that is designed to represent the civilian noninstitutional population of the United States. Sampling errors occur in the CPS because observations are made on a sample, not on the entire population. The margin of error (MOE) is a measure of dispersion around the estimated fatal injury rate, expressed at the 95% confidence level. For more on confidence intervals, see https://www.bls.gov/iif/osh\_rse.htm.

<sup>&</sup>lt;sup>3</sup> The Census of Fatal Occupational Injuries (CFOI) has published data on fatal occupational injuries for the United States since 1992. During this time, the classification systems and definitions of many data elements have changed. Please see the CFOI Definitions page (www.bls.gov/iif/oshcfdef.htm) for a more detailed description of each data element and their definitions. Occupation is based on the Standard Occupational Classification (SOC) 2010 system.

<sup>&</sup>lt;sup>4</sup> Includes fatal injuries to persons identified as resident armed forces regardless of individual occupation listed.

Table 4. Fatal occupational injuries counts and rates by selected industries, 2016-17

	Counts		Rate	s <sup>1</sup>	Rates Margin of Error <sup>2</sup>	
Characteristic	2016	2017	2016	2017	2016	2017
Total <sup>3</sup>	5,190	5,147	3.6	3.5	0.0	0.0
Industry (NAICS)	1 1				- 1	
Private industry <sup>4</sup>	4,693	4,674	3.8	3.7	0.0	0.0
Goods producing	1,991	1,967	6.8	6.7	0.1	0.1
Agriculture, forestry, fishing and hunting	593	581	23.2	23.0	1.5	1.7
Crop production	261	263	20.9	20.9	2.0	2.1
Animal production and aquaculture	151	152	15.4	16.4	1.4	1.7
Forestry and logging	106	76	N/A	N/A	N/A	N/A
Mining, quarrying, and oil and gas extraction <sup>5</sup>	89	112	10.1	12.9	1.5	2.2
Mining (except oil and gas)	22	31	10.0	15.5	2.1	3.6
Support activities for mining	56	73	10.1	12.8	2.1	2.9
Construction	991	971	10.1	9.5	0.2	0.2
Construction of buildings	182	196	N/A	N/A	N/A	N/A
Heavy and civil engineering construction	159	152	N/A	N/A	N/A	N/A
Specialty trade contractors	631	610	N/A	N/A	N/A	N/A
Manufacturing	318	303	2.0	1.9	0.0	0.0
Food manufacturing	40	51	2.3	2.8	0.1	0.2
Fabricated metal product manufacturing	41	50	3.4	4.3	0.2	0.3
Service providing	2,702	2,707	2.8	2.8	0.0	0.0
Wholesale trade	179	174	4.8	4.8	0.2	0.2
Retail trade	282	287	1.9	2.0	0.0	0.0
Motor vehicle and parts dealers	42	54	1.9	2.5	0.1	0.1
Food and beverage stores	71	60	2.7	2.3	0.1	0.1
Transportation and warehousing	825	882	14.3	15.1	0.4	0.5
Truck transportation	570	599	25.6	28.0	1.0	1.5
Utilities	30	28	2.8	2.6	0.2	0.2
Information	46	43	1.7	1.6	0.1	0.1
Finance and Insurance	26	32	0.4	0.5	0.0	0.0
Real estate and rental and leasing	91	69	3.2	2.4	0.1	0.1
Professional, scientific, and technical services	100	69	0.9	0.6	0.0	0.0
Administrative and support and waste management and remediation services	439	460	N/A	N/A	N/A	N/A
Educational services	42	43	1.0	1.0	0.0	0.0
Health care and social assistance	117	146	0.7	0.8	0.0	0.0
Arts, entertainment, and recreation	96	91	3.9	3.2	0.2	0.1
Accommodation and food services	202	171	2.2	1.9	0.0	0.0
Other services, except public administration	223	205	3.2	2.9	0.1	0.1
Government <sup>6</sup>	497	473	2.2	2.0	0.0	0.0
Federal government <sup>4</sup>	107	116	1.2	1.3	0.0	0.1
State government <sup>4</sup>	97	91	1.5	1.4	0.0	0.0
Local government <sup>4</sup>	291	265	3.0	2.6	0.1	0.1

#### (資料作成者注: Table 4の脚注)

Note: Data for all years are final. Totals for major categories may include subcategories not shown separately. CFOI fatal injury counts exclude illness-related deaths unless precipitated by an injury Source: U.S. Bureau of Labor Statistics, Current Population Survey, Census of Fatal Occupational Injuries

<sup>&</sup>lt;sup>1</sup> Fatal injury rates are per 100,000 full-time equivalent workers (FTEs). Fatal injury rates exclude workers under the age of 16 years, volunteers, and resident military. Complete national rates can be found at www.bls.gov/iif/oshcfoi1.htm#rates. Complete state rates can be found at www.bls.gov/iif/oshstate.htm. National and state rates are calculated using different methodology and cannot be directly compared. Please see www.bls.gov/iif/oshfaq1.htm#q16 for more information on how rates are calculated and caveats for comparison. N/A means a rate was not published for this group.

<sup>&</sup>lt;sup>2</sup> Fatal injury rates rely on the census figures from the CFOI and the employment from the Current Population Survey (CPS). CPS is a sample of households that is designed to represent the civilian noninstitutional population of the United States. Sampling errors occur in the CPS because observations are made on a sample, not on the entire population. The margin of error (MOE) is a measure of dispersion around the estimated fatal injury rate, expressed at the 95% confidence level. For more on confidence intervals, see https://www.bls.gov/iif/osh\_rse.htm.

<sup>&</sup>lt;sup>3</sup> The Census of Fatal Occupational Injuries (CFOI) has published data on fatal occupational injuries for the United States since 1992. During this time, the classification systems and definitions of many data elements have changed. Please see the CFOI Definitions page (www.bls.gov/iif/oshcfdef.htm) for a more detailed description of each data element and their definitions. Industry is based on the 2012 North American Industry Classification System (NAICS).

<sup>4</sup> Includes all fatal occupational injuries meeting this ownership criterion across all specified years, regardless of industry classification system.

<sup>&</sup>lt;sup>5</sup> Includes fatal injuries at all establishments categorized as Mining, quarrying, and oil and gas extraction (Sector 21) in the North American Industry Classification System, including establishments not governed by the Mine Safety and Health Administration (MSHA) rules and reporting, such as those in Oil and Gas Extraction.

<sup>&</sup>lt;sup>6</sup> Includes fatal injuries to workers employed by governmental organizations regardless of industry. Includes all fatal occupational injuries meeting this ownership criterion across all specified years, regardless of industry classification system.

Table 5. Fatal occupational injuries counts and rates by state of incident, 2016-17

ти в при на при на при на при при на при В	Cou	Counts		s <sup>1</sup>
Characteristic	2016	2017	2016	2017
Total <sup>2</sup>	5,190	5,147	3,6	3.5
**************				
State of incident	100	83	5.2	4.3
Alabama	35	33		4.3
Alaska	77		10.6	10.2
Arizona	100700	90	2.6	3.0
Arkansas	68	76	5.3	6.1
California	376	376	2.2	2.2
Colorado	81	77	3.0	2.8
Connecticut	28	35	1.6	1.9
Delaware	12	10	2.6	2.4
District of Columbia	5	13	1.4	3.4
Florida	309	299	3.6	3,3
Georgia	171	194	3.9	4.1
Hawaii	29	20	2.4	2.2
Idaho	30	37	4.1	4.8
Illinois	171	163	2.9	2.8
Indiana	137	138	4.5	4.5
Iowa	76	72	4.8	4.7
Kansas	74	72	5.2	5.2
Kentucky	92	70	5.0	3.8
Louisiana	95	117	5.0	6.3
Maine	18	18	2.4	2.7
Maryland	92	87	3.2	3.0
Massachusetts	109	108	3.3	3.2
Michigan	162	153	3,5	3.4
Minnesota	92	101	3.4	3.5
Mississippi	71	90	6.3	6.2
Missouri	124	125	4.3	4.4
Montana	38	32	7.9	6.9
Nebraska	60	35	6.3	3.6
Nevada	54	32		
			4.2	2.4
New Hampshire	22	11	3.2	1.6
New Jersey	101	69	2.4	1.6
New Mexico	41	44	4.9	4.7
New York (including N.Y.C.)	272	313	3.1	3.5
New York City	56	87	1.5	2.3
North Carolina	174	183	3.7	3.9
North Dakota	28	38	7.0	10.1
Ohio	164	174	3.1	3.3
Oklahoma	92	91	5.6	5.5
Oregon	72	60	3.9	3.2
Pennsylvania	163	172	2.8	3.0
Rhode Island	9	8	1.8	1.6
South Carolina	96	88	4.4	4.2
South Dakota	31	30	7.5	7.3
Tennessee	122	128	4.3	4.4
Texas	545	534	4.4	4.3
Utah	44	43	3.2	2.9
Vermont	10	22	3.2	7.0
Virginia	153	118	4.0	2.9
Washington	78	84	2.4	2.5
West Virginia	47	51		7.4
			6.6	
Wisconsin	105	106	3.6	3.5
Wyoming	34	20	12.3	7.7

(資料作成者注: Table 5の脚注)

Note: Data for all years are final. CFOI fatal injury counts exclude illness-related deaths unless precipitated by an injury event. Margin of error is not available for state rate data.

Source: U.S. Bureau of Labor Statistics, Current Population Survey, Local Area Unemployment Statistics, Census of Fatal Occupational Injuries

<sup>&</sup>lt;sup>1</sup> Fatal injury rates are per 100,000 full-time equivalent workers (FTEs). Fatal injury rates exclude workers under the age of 16 years, volunteers, and resident military. Complete national rates can be found at www.bls.gov/iif/oshstate.htm. National and state rates are calculated using different methodology and <u>cannot</u> be directly compared. Please see www.bls.gov/iif/oshfaq1.htm#q16 for more information on how rates are calculated and caveats for comparison. N/A means a rate was not published for this group.

<sup>&</sup>lt;sup>2</sup> The Census of Fatal Occupational Injuries (CFOI) has published data on fatal occupational injuries for the United States since 1992. During this time, the classification systems and definitions of many data elements have changed. Please see the CFOI Definitions page (www.bls.gov/iif/oshcfdef.htm) for a more detailed description of each data element and their definitions.

#### Ⅱ 2017年におけるアメリカ合衆国の休業労働災害発生状況について

(資料作成者注(再掲):2019年8月末現在では、アメリカ合衆国の労働災害統計を担当しているアメリカ合衆国労働省労働統計局(The Bureau of Labor Statistics (BLS)) は、2018年についての関連する統計を発表していません。そのホームページは、次のとおりその公表予定が示されています。

Schedule	公表予定
November 2019 - Employer-Reported Workplace Injuries and	2019 年 11 月―使用者から報告された職場での傷害及び疾病 [2018]
Illnesses (2018 data)	年データ]
December 2019 - Census of Fatal Occupational Injuries (2018 data)	2019 年 12 月―死亡労働傷害調査(2018 年データ)

そこで、本稿では既に 2019 年 1 月 6 日に、当国際センターのウェブサイト: <a href="https://www.jisha.or.jp/international/topics/pdf/201901\_02.pdf">https://www.jisha.or.jp/international/topics/pdf/201901\_02.pdf</a> で公表した「アメリカ合衆国労働統計局は、2017 年における使用者(雇用者)が報告した職場における傷害及び職業性疾病の発生状況」を再掲することとしました。)

このたび(2018年11月8日に)、アメリカ合衆国労働統計局は、2017年における使用者 (雇用者) が報告した職場における傷害及び職業性疾病の発生状況を公表しました。それによりますと、

- 民間の使用者によって 2017 年に報告された非致死的な職場における負傷及び疾病 (休業1日以上のもの) は、おおよそ 280 万の負傷及び疾病があって、その発生率は、フルタイム換算(FTE)労働者 100 人当たり 2.8 件でした。
- 職業上の負傷及び疾病に関する調査(S0II)からの見積もりに従えば、2017年における負傷及び疾病は、その前年に比較してほぼ 45,800件少なかった。

とされています。

以下このニュース発表の全文を「英語原文-日本語仮訳」として紹介します。

2018 年 12 月 中央労働災害防止協会技術支援部 国際センター

## [原典の所在] https://www.bls.gov/news.release/osh.nr0.htm

## [原典の名称] Economic News Release

Employer-Reported Workplace Injury and Illnesses, 2017

(資料作成者注:以下において、「イタリック体で記載されているもの」は、資料作成者注が訳文を補足するために加えたものであることを示します。)

(資料作成者注:このニュース発表を参照するに当たっては、アメリカ合衆国の職業性の負傷又は疾病の記録及び報告に関する基準(Recording and Reporting Occupational Injuries and Illness 1904,1、2等)に留意する必要があります。この基準の概要は、次のとおりであり、日本の労働安全衛生法に基づく労働者死傷病報告(労働安全衛生規則第 97 条。別記を参照されたい。)が、使用者の規模にかかわらず、労働者が労働災害その他就業中又は事業場内若しくはその附属建設物内における 負傷、窒息又は急性中毒により死亡し、又は休業したときは、遅滞なく所定の報告書を所轄労働基準監督署長に提出しなければならないとされているのと異なっています。)

(参考) アメリカ合衆国の職業性の負傷又は疾病の記録及び報告に関する基準

Regulations (Standards - 29 CFR) - Table of Contents		
Part Number:	1904	
Part Title:	Recording and Reporting Occupational Injuries and Illness	
Subpart:	C	
Subpart Title:	Recordkeeping Forms and Recording Criteria	
<ul><li>Standard Number:</li></ul>	1904.7	
	(資料作成者注:ウェブサイトは、	
	$\underline{https://www.osha.gov/pls/oshaweb/owadisp.show\_document?p\_table=STANDARDS\&p\_id=9638}\ )$	
	Title: General recording criteria.	

(アメリカ合衆国の職業性の負傷又は疾病の記録及び報告に関する基準の概要)

① 10 人以下の労働者を使用する使用者に対しては、職業上の傷害及び疾病に関する記録の作成及び報告義務が(労働安全衛生局又は労働統計局の書面による個

別の要求があった場合を除いて) 部分的に免除されていること、

- ② (職業性傷害や疾病が起こりにくいとみなされている)一定の業種に属する事業所(基準 1904 の Non-Mandatory Appendix A to Subpart B -- Partially Exempt Industries に掲げられている、例えば、衣服販売店、法律事務所、専門的な設計事務所等)についてもこの記録の作成及び報告が適用除外されていること、に留意する必要がある。ただし、これらの事業所でも、職業性の死亡事故は8時間以内に、入院を伴う災害、四肢等の切断の災害、眼を失う災害については24時間以内に、上記の適用除外にかかわらず、それぞれ、すべての使用者は、労働安全衛生局に直接報告しなければならないと基準1904.39で規定されています。)
- ③ 29 CFR(資料作成者注: Code of Federal Regulations(連邦規則集))1904.7 で規定されている作業関連の傷害及び疾病として記録の作成及び労働安全衛生局への報告が義務付けられているのは、次の表に掲げられているものです。資料出所: OSHA Forms for Recording Work-Related Injuries and Illnesses:ウェブサイト: (<a href="https://www.osha.gov/recordkeeping/new-osha300form1-1-04-FormsOnly.pdf">https://www.osha.gov/recordkeeping/new-osha300form1-1-04-FormsOnly.pdf</a>)

英語原文	日本語仮訳
▼ death,	▼ 死亡 (災害)
▼ loss of consciousness,	▼ 意識不明 (の災害)
▼ days away from work,	▼ 作業に就けない休業日数がある <i>(災害)</i>
▼ restricted work activity or job transfer, or	▼ 作業活動の制限又は仕事の転換を伴う <i>(災害)</i> 、又は
▼ medical treatment beyond first aid.	▼ 救急措置を超える医学的措置 <i>(を伴う災害)</i>
You must also record work-related injuries and illnesses that are significant	使用者は、次に定義されるさらに、重要な作業関連の傷害若しくは疾病又は次に
(as defined below) or meet any of the additional criteria listed below.	列挙されている追加的な基準に該当する作業関連の傷害若しくは疾病も、記録し
You must record any significant work related injury or illness that is	なければならない。
diagnosed by a physician or other licensed health care professional.	使用者は、内科医又は他の免許を受けた健康管理専門職によって診断されたいな
	なる作業関連傷害又は疾病をも記録しなければなりません。
You must record any work-related case involving cancer, chronic irreversible	使用者は、がん、慢性の不可逆的な疾病、骨折又は骨にひびが入ったもの、又は
disease, a fractured or cracked bone, or a punctured eardrum. See 29 CFR	鼓膜に穴が開いたものを含むいかなる作業関連疾病をも記録しなければなりま
1904.7.	せん。29CFR 1904.7 を参照。

What are the additional criteria?

You must record the following conditions when they are work-related:

- any needle stick injury or cut from a sharp object that is contaminated with another person's blood or other potentially infectious material;
- ▼ any case requiring an employee to be medically removed under the requirements of an OSHA health standard;
- ▼ tuberculosis infection as evidenced by a positive skin test or diagnosis by a physician or other licensed health care professional after exposure to a known case of active tuberculosis;
- an employee's hearing test (audiogram) reveals 1) that the employee has experienced a Standard Threshold Shift (STS) in hearing in one or both ears (averaged at 2000, 3000, and 4000 Hz) and 2) the employee's total hearing level is 25 decibels (dB) or more above audiometric zero (also averaged at 2000, 3000, and 4000 Hz) in the same ear(s) as the STS.

追加的な基準とは何か?

使用者は、作業関連性のある場合には、次の状態を記録しなければならない。

- ▼ 注射針による刺傷又は他人の血液若しくは感染性のおそれのある物質で汚染されているとがった物による切り傷
- ▼ 被雇用者が労働安全衛生局の衛生基準によって医学的に隔離されることが 求められるいかなる場合
- ▼ 活動性の結核の症例として知られているものへのばく露の後に皮膚テスト での陽性又は内科若しくは資格のある保健専門職による診断により証明さ れた結核への感染
- ▼ 被雇用者が聴力テスト(聴力図)で、1)片方又は両方の耳の聴力に(2000、3000及び4000ヘルツでの平均で)標準的な閾値の変化)STS)があり、2)STSと同じ耳で総合的な聴力レベルが聴力測定上のゼロ(同様に、2000、3000及び4000ヘルツでの平均)を25デシベル又はそれ以上超えている場合

(別記 労働安全衛生規則第97条)

(労働者死傷病報告)

**第九十七条** 事業者は、労働者が労働災害その他就業中又は事業場内若しくはその附属建設物内における 負傷、窒息又は急性中毒により死亡し、又は休業したと きは、遅滞なく、**様式第二十三号**による報告書を所轄労働基準監督署長に提出しなければならない。

2 前項の場合において、休業の日数が四日に満たないときは、事業者は、同項の規定にかかわらず、一月から三月まで、四月から六月まで、七月から九月まで 及び十月から十二月までの期間における当該事実について、<mark>様式第二十四号</mark>による報告書をそれぞれの期間における最後の月の翌月末日までに、所轄 労働基準 監督署長に提出しなければならない。

# (今回のニュース発表の本文の「英語原文―日本語仮訳」)

# NEWS RELEASE BUREAU OF LABOR STATISTICS BUREAU OF LABOR STATISTICS BUREAU OF LABOR STATISTICS BLS

#### ニュース発表

アメリカ合衆国労働統計局 (BLS)

# For release 10:00 a.m. (EST) Thursday, November 8, 2018

USDL-18-1788

Technical information: (202) 691-6170 • IIFSTAFF@bls.gov • www.bls.gov/iif

Media contact: (202) 691-5902 • PressOffice@bls.gov

#### 報道発表東部標準時 2018 年 11 月 8 日午前 10 時 00 分

USDL-18-1788

技術的情報:(202)691-6170 · IIFSTAFF@bls.gov · www.bls.gov/iif

Media contact: (202) 691-5902 · PressOffice@bls.gov

# EMPLOYER-REPORTED WORKPLACE INJURIES AND ILLNESSES – 2017

# Employer-Reported Workplace Injuries and Illnesses – 2017

There were approximately 2.8 million nonfatal workplace injuries and illnesses reported by private industry employers in 2017, which occurred at a rate of 2.8 cases per 100 full-time equivalent (FTE) workers, the U.S. Bureau of Labor Statistics reported today. Private industry employers reported nearly 45,800 fewer nonfatal injury and illness cases in 2017 compared to a year earlier, according to estimates from the Survey of Occupational Injuries and Illnesses (SOII).

# 使用者が報告した職場での負傷及び疾病 2017 アメリカ合衆国労働統計局 (BLS)

# 使用者が報告した職場での負傷及び疾病-2017

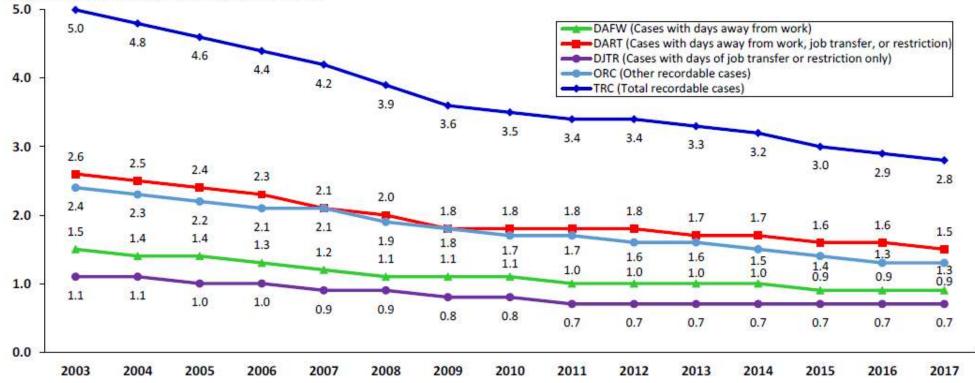
本日付け報告によれば、民間の使用者によって 2017 年に報告された非致死的 な職場における負傷及び疾病は、おおよそ 280 万であって、その発生率は、フルタイム換算 (FTE) 労働者 100 人当たり 2.8 件でした あった。

職業上の負傷及び疾病に関する調査 (SOII) による」推計によれば、2017 年の民間使用者から報告された負傷及び疾病は、その前年に比較してほぼ 45,800件少なかったです。

(資料作成者注:次の Chart1(図 1)参照)

Chart 1. Nonfatal occupational injury and illness incidence rates by case type, private industry, 2003-17

Incidence rates per 100 full-time equivalent workers



The total recordable cases (TRC) incidence rate among private industry employers declined to 2.8 cases per 100 full-time workers in 2017—down from 2.9 cases in 2016. While the incidence rate for days away from work, job transfer, or restriction (DART) cases declined to 1.5 cases in 2017—down from 1.6 cases in 2016—the rates its components of days away from work (DAFW) cases and days of job transfer or restriction only (DJTR) cases were unchanged. The rate for other recordable cases (ORC) cases also remained unchanged from 2016.

View data

1

(資料作成者注1:図1において、次の表示の意味は、次のとおりである。)

- 発生率:フルタイム換算労働者 100 人当たりの件数
- DAFW (Cases with days away from work) (緑色表示): 休業を伴う事故 (休業とは1月以上である。以下同じ。)
- DART (Cases with days away from work, job transfer, or restriction) (赤色表示): 休業を伴う業務の転換又は制限のある休業を伴う事故
- DJTR(Cases with days away of job transfer or ristrictiOn only) (紫色表示): 業務の転換又は制限のみの事故
- ORC(Other recordable cases) (薄青色表示): 他の記録される事故
- TRC(Total recordable cases) (青色表示): 記録事故の合計

(資料作成者注2:図1における脚注の意味は、次の「英語原文-日本語仮訳」のとおりである。

#### 英語原文

The total recordable cases (TRC) incidence rate among private industry employers declined to 2.8 cases per 100 full-time workers in 2017—down from 2.9 cases in 2016. While the incidence rate for days away from work, job transfer, or restriction (DART) cases declined to 1.5 cases in 2017—down from 1.6 cases in 2016—the rates its components of days away from work (DAFW) cases and days of job transfer or restriction only (DJTR) cases were unchanged. The rate for other recordable cases (ORC) cases also remained unchanged from 2016.

#### 日本語仮訳

民間企業の被雇用者の全体の記録された事故(TRC)の発生率は、100人のフルタイム労働者に対して、2016年の2.9人から2017年には2.8人に減少しました。一方、休業、業務の転換又は制限を伴う非致死的な事故(DART)は、2017年には1.5件と2016年の1.6件よりは減少しました。その構成要素である休業を伴う事故(DAFW)並びに業務の転換又は制限のみの休業を伴う非致死的な負傷及び疾病(DJTR)の発生率には変化はありませんでした。その他の記録された事故(ORC)の発生率も2016年から変化はありませんでした。

- The 2017 rate of total recordable cases (TRC) fell 0.1 cases per 100 FTE workers to continue a pattern of declines that, apart from 2012, occurred annually since 2004. (See chart 1.)
- The rates for different types of cases—days away from work (DAFW), days of job transfer or restriction only (DJTR), and other recordable cases (ORC)—were unchanged from a year earlier.
- TRC(記録される件数の合計)の発生率は、フルタイム労働者換算 100 人当 たりで 0.1 低下し、2012 年を除いて、2004 年以来の減少傾向のパターン を継続しています。(図 1 参照)
- 事故の異なるタイプの発生率—DAFW (休業を伴うもの)、DJTR(業務の転換又は制限のみを伴うもの)及び ORC(Other recordable cases) (他の記録される件数) ーは、その前年と変化していません。

- The rate for DJTR cases has remained at 0.7 cases per 100 FTE workers since 2011.
- Nearly one-third of nonfatal occupational injuries and illnesses resulted in days away from work.
- Among the 19 private industry sectors, only manufacturing and finance and insurance
  experienced statistically significant changes in their overall rates of nonfatal injuries
  and illnesses in 2017—each declined by 0.1 cases per 100 FTE workers compared to
  2016.

Nonfatal occupational injuries and illnesses data by industry and case type are available at www.bls.gov/web/osh/summ1\_00.htm and www.bls.gov/web/osh/summ2\_00.htm.

### Cases Resulting in Days Away from Work

Data and analysis below highlight case circumstances and worker characteristics for nonfatal injuries and illnesses that resulted in days away from work (DAFW) unless otherwise noted. Counts and incidence rates for DAFW cases are presented at a different precision level than for other case types. Data users are cautioned to account for different levels of precision when analyzing estimates presented in this release.

There were 882,730 occupational injuries and illnesses in 2017 that resulted in days away from work in private industry, essentially unchanged from 2016. The private industry incidence rate for DAFW cases was 89.4 cases per 10,000 full-time equivalent (FTE) workers in 2017. The median days away from work—a key measure of the severity of cases—was 8 in 2017, unchanged from 2016. (See tables www.bls.gov/web/osh/cd\_r1.htm and www.bls.gov/web/osh/cd\_r65.htm.)

- DJTR(業務の転換又は制限のみを伴うもの)の発生率は、2011 年以来、フルタイム労働者換算 100 人当たりで 0.7 件にとどまっています。
- 非致死的な負傷及び疾病の約 1/3 は、休業を伴っています。
- 19の民間産業部門のうち、製造業、金融・保険業のみが2017年に全体の 非致死的な傷害及び疾病の発生率で統計的に有意な変化を経験し、2016 年に比べてフルタイム換算労働者100人当たり0.1件が減少しました。

非致死的な傷害及び疾病の産業別及び型別のデータは、www.bls.gov/web/osh/summ1\_00.htm and www.bls.gov/web/osh/summ2\_00.htm で利用できます。

# 休業を伴うケース

下記のデータと分析は、別段の記載がない限り、休業を要した非致死的な傷害及び疾病(DAFW)における症例状況と労働者の特質に焦点を当てています。 DAFW についての件数及び発生率は、他の件数及び発生率とは異なる精度で提示されています。 この報道発表で提供されている推計値を分析する場合には、データのユーザーは異なる精度レベルを考慮する必要があります。

2017年には、民間産業で休業を伴う 882,730の職業上の傷害及び疾病があり、本質的には 2016年からの変化はありませんでした。民間企業での DAFW についての発生率は、2017年には 1万人のフルタイム換算 (FTE) 労働者当たり 89.4でした。傷害及び疾病の重大性の重要な尺度である休業日数の中央値は、2017年には 8 であり、2016年と変わりませんでした。

(表 www.bls.gov/web/osh/cd\_r1.htm

The number of DAFW cases involving overexertion in lifting or lowering rose 3,250 cases to 97,990 in 2017, while the rate was unchanged at 9.9 cases per 10,000 FTE workers. The number of DAFW cases involving workers struck by objects or equipment fell 4,180 cases to 136,510 in 2017 and the rate decreased to 13.8 cases per 10,000 FTE workers, down from 14.5 in 2016. (See tables www.bls.gov/web/osh/cd\_r64.htm and www.bls.gov/web/osh/cd\_r75.htm.)

及び <u>www.bls.gov/web/osh/cd r65.htm</u> を参照。)

物の持ち上げ又は持ち下げ作業における動作の反動、無理な動作関連の DAFW 件数は、2017 年に 3,250 件増加して 97,990 件に達しましたが、その割合は 10,000 人のフルタイム換算 (FTE) 労働者当たり 9.9 件で変化はありませんでした。物又は設備に衝突された労働者の DAFW 件数は 2017 年に 4,180 件減少して 136,510 件になり、10,000 人のフルタイム換算 (FTE) 労働者当たり 2016年の 14.5件から 2017年には 13.8件に低下しました。(表www.bls.gov/web/osh/cd r64.htm

及び www.bls.gov/web/osh/cd r75.htm

を参照)

#### In manufacturing:

- The incidence rate of total recordable cases in manufacturing decreased in 2017; however, the DAFW rate was unchanged from 2016 at 93 cases per 10,000 FTE workers. There were 115,550 DAFW cases in manufacturing, which was essentially unchanged from 2016.
- The median days away from work in manufacturing was 8, one day fewer than in 2016.
- Four minor level occupation groups accounted for 67 percent of DAFW cases in 2017, including other production workers (30,210 cases); metal and plastic workers (19,610 cases); and material moving workers (15,260 cases). The fourth group among these—assemblers and fabricators—was the only one with a decrease, down 900 DAFW cases in 2017 to 12,140.
- The number of DAFW cases where the event or exposure was overexertion and bodily reaction fell 1,690 cases to 40,680 in 2017. The rate decreased to

#### 製造業では:

- 製造業における記録された傷害及び疾病の発生率は 2017 年に減少した。 しかし、DAFW の発生率は、10,000 人のフルタイム換算 (FTE) 労働者 当たり 93 件で 2016 年と変わりませんでした。 製造業には 115,550 件の DAFW があり、それは 2016 年と本質的に変わりませんでした。
- 製造業の仕事の休業日数の中央値は8日で、2016年に比べて1日少なくなっています。
- 2017年のDAFWのうち、4つの比較的少数である職業集団が67%を占めています。これらはその他の生産労働者(3,0210件)、金属及びプラスチックの労働者その他(19,610件)、物の移動労働者(15,260件)が含まれています。これらのうちの第4番目のグループ―組み立て労働者―は、減少した唯一のものであり、2017年には900件のDAFWが減少して12,140件になりました。
- 事象やばく露が動作の反動、無理な動作に起因した DAFW の件数は、2017 年には 1,690 件減少して 40,680 件でした。この発生率は、フルタイム換

32.7 cases per 10,000 FTE workers from 34.1 in 2016.

- Musculoskeletal disorders (MSDs) accounted for 34 percent of the DAFW cases in manufacturing and fell 1,930 cases to 38,950 in 2017. The rate was 31.4 cases per 10,000 FTE workers, down from 32.9 in 2016. The median days away from work was 12, two days fewer than in 2016.
- Sprains, strains, and tears was the leading type of injury in manufacturing at 34,110, unchanged from 2016. The rate of 27.5 cases per 10,000 FTE workers was also unchanged from 2016. The median days away for injuries from sprains, strains, and tears was 10, one day fewer than in 2016.

See tables www.bls.gov/web/osh/cd\_r1.htm, www.bls.gov/web/osh/cd\_r5.htm, www.bls.gov/web/osh/cd\_r8.htm, and www.bls.gov/web/osh/cd\_r44.htm.

算 (FTE) 労働者 10,000 人当たり 2016 年の 34.1 件から、32.7 件に減少しました。

- 筋骨格系障害 (MSD) は、製造業における DAFW の 34%を占め、2017年に1,930件減少して38,950件になりまた。この発生率は、2016年の32.9件から、フルタイム換算(FTE)労働者10,000人当たり31.4件でした。休業日数の中央値は12日で、2016年に比べて2日少なくなりました。
- 捻挫、挫傷及び引き裂きは、製造業における主要な傷害タイプで 2016 年から変化せずに 34,110 件であった。10,000 人のフルタイム換算 (FTE) 労働者当たり 27.5 件の発生率も 2016 年から変わりませんでした。捻挫、挫傷及び引き裂きによる負傷の休業日数の中央値は 10 日で、2016 年に比べて 1 日少なくなりました。

次の表を参照

www.bls.gov/web/osh/cd r1.htm

www.bls.gov/web/osh/cd r5.htm

www.bls.gov/web/osh/cd r8.htm

及び

www.bls.gov/web/osh/cd r44.htm

# **Selected other private industry subsectors:**

Four industry subsectors reported at least 15,000 DAFW cases in 2017 and had changes in the number of cases compared with 2016. The number of DAFW cases in warehousing and storage increased from 2016 while the incidence rate was essentially unchanged. Three other industry subsectors—hospitals, administrative and support services, and social assistance—had decreases in both their case counts and incidence rates for DAFW cases.

See tables www.bls.gov/web/osh/cd\_r1.htm, www.bls.gov/web/osh/cd\_r5.htm, and www.bls.gov/web/osh/cd\_r8.htm.

選択された他の小分類の民間産業:

4 つの細分類の産業は、2017 年に少なくとも 15,000 の DAFW の件数を報告し、2016 年と比較して件数が変化しました。

倉庫保管業における DAFW 件数は 2016 年から増加したが、発生率は本質的に変わらなかった。他の 3 つの細分類産業(病院、行政支援サービス及び社会保障)は、DAFW 件数及び発生率の両方が低下しました。

次の表を参照

www.bls.gov/web/osh/cd\_r1.htm,

	<u>www.bls.gov/web/osh/cd r5.htm</u> 及び
	www.bls.gov/web/osh/cd_r8.htm .
In warehousing and storage:	倉庫保管業では:
• The number of DAFW cases rose 2,930 cases to 17,390 in 2017. The	• 2017年の DAFW 件数は 2,930件増加して 17,390件でした。 2017年の発
incidence rate (182.4 cases per 10,000 FTE workers) in 2017 was essentially	生率(フルタイム換算(FTE)労働者1万人当たり182.4件)は本質的に
unchanged from 2016.	2016年と変わりませんでした。
The number of DAFW cases resulting from overexertion and bodily reaction	• 動作の反動、無理な動作に起因する DAFW の件数は、1,350 件増加して
rose 1,350 cases to 8,310 in 2017; contact with objects and equipment rose	2017年には8,310件になりました。 物及び設備との接触は620件増加し
620 cases to 4,370; and falls, slips, or trips rose 480 cases to 3,030.	て 4,370 件になりました。 転倒、転落、又はつまずきが 480 件増加して
•	3,030 件となりました。
• Transportation and material moving workers incurred 12,750 DAFW cases in	<ul><li>輸送及び運送業務の労働者は、2017年に12,750件のDAFWが発生し、</li></ul>
2017, an increase of 3,120 cases from 2016.	2016年から 3,120 件増加しました。
In hospitals:	病院では:
• The 51,380 DAFW cases in 2017 resulted in an incidence rate of 129.8 cases	• 2017年の 51,380件の DAFW は、フルタイム換算(FTE)労働者 10,000
per 10,000 FTE workers, down from 134.3 in 2016.	人当たり 129.8 件の発生率をもたらし、2016 年の 134.3 件から減少しま
The incidence rate for DAFW cases resulting from overexertion and bodily	した。
reaction decreased to 56.7 cases per 10,000 FTE workers in 2017, from 62.1	• 動作の反動、無理な動作に起因する DAFW の発生率は、フルタイム換算
in 2016.	(FTE) 労働者 10,000 人当たり 2016 年の 62.1 人から 2017 年には 56.7
• The incidence rate for DAFW cases resulting from falls on the same level	人に減少しました。
increased to 25.2 cases per 10,000 FTE workers in 2017, from 23.6 in 2016.	• 転倒に起因する DAFW の発生率は、フルタイム換算 (FTE) 労働者 10,000
	人当たり 25.2 件で、2016 年における 23.6 件より増加しました。
• Healthcare practitioners suffered 23,570 DAFW cases in 2017, down 600	• 医療従事者は 2017 年に 23,570 件の DAFW が発生し、2016 年より 600

# In administrative and support services:

• The number of DAFW cases fell 5,680 cases to 37,380 in 2017. The incidence rate fell to 78 cases per 10,000 FTE workers, from 91.2 in 2016.

# 管理及び支援サービスでは:

• DAFW 件数は 5,680 件減少して、2017 年には 37,380 件であった。発生 率は、フルタイム換算 (FTE) 労働者 10,000 人当たり 2016 年の 91.2 件 • Falls, slips, or trips was the leading type of event or exposure resulting in DAFW cases in 2017 and decreased 2,430 cases to 11,140.

から、2017年には78件に減少した。

・ 墜落、滑り又はつまずきが、DAFW の主要な型の事象又はばく露であって、2017年には 2,430 件減少して 11,140 件になりました。

#### *In social assistance:*

- The number of DAFW cases in 2017 fell 4,750 cases to 19,360. The incidence rate fell to 88.4 cases per 10,000 FTE workers, from 113.8 in 2016.
- Falls, slips, or trips was among the leading types of event or exposure leading to DAFW cases in 2017 with 6,250 cases, a decline of 1,410 cases from 2016.

#### 社会保障では:

- 2017年の DAFW 件数は 4,750 件減少し、19,360 件となった。発生率は、フルタイム換算(FTE) 労働者 10,000 人当たりで、2016年の 113.8 人から、2017年には 88.4 人に減少しました。
- 2017年に DAFW に至った主な種類の事象又はばく露の中で、墜落、滑り 又はつまずきが 2017年には 6,250件で、2016年から 1,410件の減少があ りました。

#### **Additional Information**

This news release is the first in a series of two releases from BLS covering occupational safety and health statistics for the 2017 calendar year. The SOII presents estimates of counts and incidence rates of employer-reported nonfatal workplace injuries and illnesses by industry and type of case, as well as more detailed estimates of case circumstances and worker characteristics for cases that resulted in days away from work.

A second release in December will provide results from the Census of Fatal Occupational Injuries (CFOI) of all fatal work injuries occurring in the U.S. during the calendar year. The CFOI uses diverse state, federal, and independent data sources to identify, verify, and describe fatal work injuries to ensure that counts are as complete and accurate as possible. Additional data from the SOII are available on the BLS website at www.bls.gov/iif/ or from BLS staff at (202) 691-6170 or by email at IIFSTAFF@bls.gov. Information in this release will be made available to

#### 追加情報

この報道発表は、2017年(暦年)の労働安全衛生統計をカバーする BLS の 2 つの発表の中で最初のものです。

SOII は、使用者が報告した非致死的職業性の傷害及び疾病の業種別及び型別の推計値並びに休業をもたらしたものについて事例の状況及び型のより詳細な推定及び労働者の性質を提供しています。

12月の2回目の報道発表は、2017年(暦年)に米国で発生したすべての致死的な労働災害の調査 (CFOI) の結果を提供します。

CFOI は、さまざまな州、連邦及び独立したデータソースを使用して、致死的な労働傷害を特定し、検証し、及び説明し、可能な限り完全で正確なものであることを保証します。

SOII からの追加データは、BLS ウェブサイト (www.bls.gov/iif/)、BLS スタッフ (202) 691-6170 又は電子メール (IIFSTAFF@bls.gov) で入手できます。 この報道発表の情報は、要望に応じて感覚障害者に利用可能となります。 音

sensory impaired individuals upon request. Voice phone: (202) 691-5200; Federal Relay Service: (800) 877-8339.

All statements of comparison made in this news release were found to be statistically significant at the 95 percent confidence level. See www.bls.gov/iif/undercount.htm for additional information regarding completeness of SOII estimates. Additional background and methodological information regarding the BLS occupational safety and health statistics program can be found in Chapter 9 of the BLS Handbook of Methods at www.bls.gov/opub/hom/soii/pdf/soii.pdf.

声電話:(202) 691-5200;

連邦中継サービス: (800) 877-8339。

この報道発表で行われたすべての比較声明は、95%の信頼性水準で統計的に有意であることが判明しました。

SOII 推定の完全性に関する追加情報については、

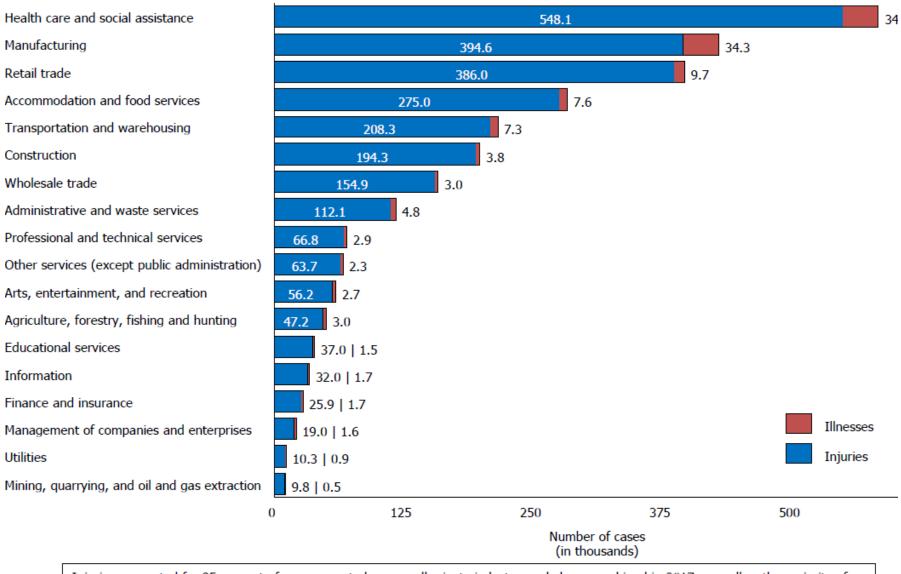
www.bls.gov/iif/undercount.htm

を参照してください。

BLS 労働安全衛生統計プログラムに関する追加の背景と方法論的な情報は、BLS ハンドブック法の第 9 章(www.bls.gov/opub/hom/soii/pdf/soii.pdf)に記載されています。

(資料作成者注:今回の報道発表資料として、題名 "2017 SURVEY OF OCCUPATIONAL INJURIES & ILLNESSESCHARTS PACKAGE, November 8, 2018" の資料中に掲載されている図については、民間産業に関する発生率のうちの主要な次の三つの図のみを収載する。

# Distribution of nonfatal occupational injuries and illnesses by private industry sector, 2017



Injuries accounted for 95 percent of cases reported among all private industry workplaces combined in 2017, as well as the majority of cases reported among individual industry sectors. Illnesses accounted for only a small fraction of cases reported in each industry sector.

# (前ページの図の標題:

英語原文	日本語仮訳
Distribution of nonfatal occupational injuries and illnesses by	民間産業業種別の非致死的傷害及び疾病の分布、2017)
private industry sector, 2017	

# (前ページの図の脚注の「英語原文一日本語仮訳」

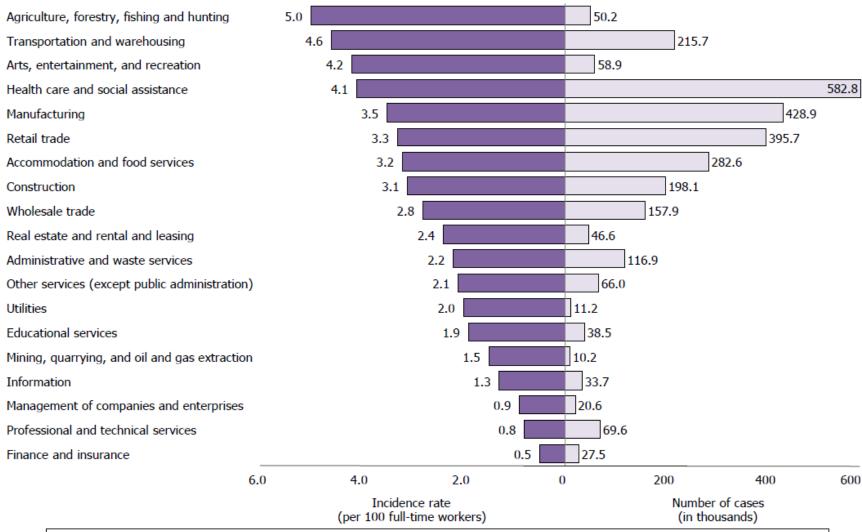
英語原文	日本語仮訳
Injuries accounted for 95 percent of cases reported among all private industry	傷害は、2017 年に組み合わされたすべての民間産業の職場の中で報告されたも
workplaces combined in 2017, as well as the majority of cases reported	のの 95%を占め、個々の産業部門の間で報告された症例の大部分を占めていた。
among individual industry sectors. Illnesses accounted for only a small	疾病は、各業種で報告されたもののごく一部しか占めていない。
fraction of cases reported in each industry sector.	

# (前ページの図の左欄にある業種分類の「英語原文―日本語仮訳」。以下同じ業種分類について同じ。)

英語原文	日本語仮訳
Health care and social assistance	医療及び社会保障
Manufacturing	製造業
Retail trade	小売業
Accommodation and food services	宿泊施設及び食品サービス
Transportation and warehousing	輸送及び倉庫
Construction	建設
Wholesale trade	卸売業
Administrative and waste services	管理及び廃棄サービス管理
Professional and technical services	専門及び技術サービス
Other services (except public administration)	その他のサービス (行政を除く)
Arts, entertainment, and recreation	芸術、娯楽、レクリエーション

Agriculture, forestry, fishing and hunting	農業、林業、漁業及び狩猟
Educational services	教育サービス
Information	情報
Finance and insurance	金融及び保険
Management of companies and enterprises	会社及び事業の管理
Mining, quarrying, and oil and gas extraction	鉱業、採石、石油及びガスの採掘
Utilities	ユーティリティー (用益)

# Incidence rates and numbers of nonfatal occupational injuries and illnesses by private industry sector, 2017



The estimated rate of occupational injuries and illnesses across industry sectors ranged from 5.0 cases per 100 full-time workers in agriculture, forestry, fishing and hunting to 0.5 cases in finance and insurance. Health care and social assistance had the highest number of injuries and illnesses, accounting for approximately 1 in 5 injury and illness cases reported by private industry employers in 2017.

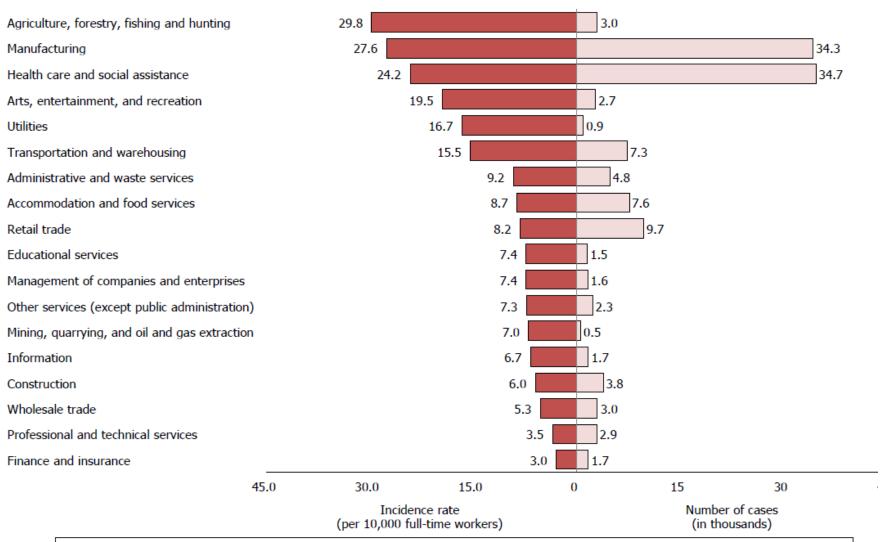
## (前ページの図の標題:

英語原文	日本語仮訳
Incidence rates and numbers of nonfatal occupational injuries and illnesses	民間産業業種別の非致死的傷害及び疾病の件数及び発生率、2017
by private industry sector, 2017	

# (前ページの図の脚注の「英語原文一日本語仮訳」)

英語原文	日本語仮訳
The estimated rate of occupational injuries and illnesses across industry	産業別職業上の傷害及び疾病のフルタイム労働者 100 人当たりの推計見発生率
sectors ranged from 5.0 cases per 100 full-time workers in agriculture,	は、農業、林業、漁業、狩猟の 5.0 から金融保険の 0.5 までにわたっている。医
forestry, fishing and hunting to 0.5 cases in finance and insurance. Health	療及び社会保障は、2017年に民間企業の使用者によって報告された傷害及び疾
care and social assistance had the highest number of injuries and illnesses,	病の、おおよそ5件のうちの1件を数える、最も多い数でした。
accounting for approximately 1 in 5 injury and illness cases reported by	
private industry employers in 2017.	

# Incidence rates and numbers of nonfatal occupational illnesses by private industry sector, 2017



The manufacturing and health care and social assistance industry sectors together reported 55.6 percent of all private industry illness cases in 2017. The estimated rate of occupational illness across private industry was 12.8 cases per 10,000 full-time equivalent workers, with rates ranging among industry sectors from 3.0 cases in the finance and insurance sector to 29.8 cases in agriculture, forestry, fishing and hunting.

## (前ページの図の標題)

英語原文	日本語仮訳
Incidence rates and numbers of nonfatal occupational injuries and illnesses	民間産業業種別の非致死的傷害及び疾病の発生率
by private industry sector, 2017	

# (前ページの図の脚注の「英語原文一日本語仮訳」)

英語原文	日本語仮訳
The manufacturing and health care and social assistance industry sectors	製造業、保健医療及び社会保障産業は、合計で 2017 年に民間の全産業の疾病の
together reported 55.6 percent of all private industry illness cases in 2017.	55.6%を報告しました。民間企業の職業病の推計発生率は、フルタイム換算労働
The estimated rate of occupational illness across private industry was 12.8	者 10,000 人当たり 12.8 であり、金融・保険部門の 3.0 件から農林業、漁業及び
cases per 10,000 full-time equivalent workers, with rates ranging among	狩猟の 29.8 件までの範囲になっています。
industry sectors from 3.0 cases in the finance and insurance sector to 29.8	
cases in agriculture, forestry, fishing and hunting.	

#### Ⅲ 参考資料 労働災害の発生率に関する日本及びアメリカ合衆国並びに EU 諸国のうち、英国、フランス及びドイツとの

#### 比較について一資料作成者の解説

このような比較を行うのは、英国、フランス及びドイツ、日本及びアメリカ合衆国さらにはオーストラリアとの労働災害統計の基本となるデータの特質、統計の対象となる被雇用者の範囲、公務及び国防・義務的社会保障事業従事者の取扱い等が必ずしも同一のものではないことから、一定の困難を伴う。しかしながら、このような条件の下でも英国、フランス及びドイツと日本及びアメリカ合衆国さらにはオーストラリアとの労働災害発生率等を比較することには、一定の意味があると考えられる。

そこで、当国際センターが従来作成してきた関係資料、今回作成した資料等から抜粋して、次の資料を作成した。この場合、オーストラリアの労災請求に基づく統計及び死亡災害統計の作成の方法は、日本、アメリカ合衆国並びに EU 加盟国のうち、英国、ドイツ及びフランスとかなり異なるので、本稿ではオートラリアについての労働災害統計の指標の種類及び関係するデータについては、別個の表として掲げてある。

しかしながら、このような条件の下でも英国、フランス及びドイツと日本及びアメリカ合衆国との労働災害発生率等を比較することには、一定の意味があると 考えられる。

そこで、当国際センターが従来作成してきた関係資料、今回作成した資料等から抜粋して、次の資料を作成した。

### 1 非致死的な労働災害の発生率の日本、アメリカ合衆国並びに EU 諸国全体、そのうち英国、フランス及びドイツとの比較

国別	統計の対象年	労働災害統計の指標の種類及び関係するデータ		左欄の指標に関する留意事		資料出所	
	(年度)			項			
日本	2013-2018年	日本における全産業死傷年千人率の推移		•	労働安全衛生法に基づく報	労働者死傷病報告、総務省労働	
		(休業4日以上及び死亡	(傷害が対象)			告義務のない公務従事者	力調査に基づく厚生労働省公表
		暦年 死傷年千人率			は、除外されている。	資料	
		2013年	2.3		•	道路交通災害を含む。	

		T					
		2014年	2.3	_			
		2015 年	2.2				
		2016年	2.2				
		2017年	2.2				
		2018年	2.3				
			,	_			
アメリカ合衆	2015年	「民間産業では、2015 年の	10,000 人のフルター	イム労働	•	公務従事者(アメリカ合衆	アメリカ合衆国労働統計局
国		者当たりの発生件数は、93.9	件(年千人率に換算	算すると		国内の軍関係者を含む。)が	(Bureau of labor Statistics)
		9.39) で、2014年の 97.8件(4	年千人率に換算する	と 9.78)		含まれている。	
		よりは減少した。」			•	いずれも道路交通災害を含	
						む。	
	2016年	「2016 年には、民間産業の使	<b></b> 使用者によって報告	されたお			
		およそ 290 万件の非致死の傷	裏害及び (職業性) 🥫	疾病があ			
		った。これらの発生率は、10	00 人のフルタイム	換算労働			
		者当たり 2.9 件(1000 人のフ	フルタイム換算労働	者に換算			
		すると 29) の発生率であった	た。」とされている。	、このこ			
		とと日本の相当するデータを	比較すると、2016年	年におけ			
		る日本の労働者死傷病報告を	基礎とする年千人	率(日本			
		の場合は休業4日以上の災害	で死亡災害を含んで	でいる。)			
		は、2014年、2015年とも 2	2.3、2016 年にあっ	ては 2.2			
		である。したがって、アメリ	カ合衆国における気	労働災害			
		発生率は休業 1 日以上のもの	)を対象にしている。	こと、危			
		険性の低い業種を除外してい	いること等を考慮に	こ入れて			
		も、日本の休業 4 日以上及び	<b>『死亡災害を対象と</b>	している			
		発生率よりは高いと考えられ	<b>、</b> る。				
	2017年	「民間の使用者によって 2017	'年に報告された非	致死的な			
	2017年	った。これらの発生率は、10 者当たり 2.9 件 (1000 人のつ すると 29) の発生率であった とと日本の相当するデータを る日本の労働者死傷病報告を の場合は休業 4 日以上の災害 は、2014 年、2015 年とも 2 である。したがって、アメリ 発生率は休業 1 日以上のもの 険性の低い業種を除外してい も、日本の休業 4 日以上及て 発生率よりは高いと考えられ	200 人のフルタイム アルタイム換算労働されている。 とされている。 比較すると、2016年 基礎とする年千人 で死亡災害を含んで 2.3、2016年にあっ カ合衆国における。 かを対象にしている。 いること等を考慮し が死亡災害を対象と いる。	換者。年率でて労ここし第にこに(いは働と入て労換のお日る2.2 害危てる			

		職場における負傷及び疾病は、おおよそ 280 万の負傷及び疾病があって、その発生率は、フルタイム換算(FTE)労働者 100 人当たり 2.8 件(1000 人のフルタイム換算労働者に換算すると 28)の発生率であった。」とされている。このことと日本の相当するデータを比較すると、2016 年における日本の労働者死傷病報告を基礎とする年千人率(日本の場合は休業 4 日以上の災害で死亡災害を含んでいる。)は、2014 年は 2.3、2015 年、2016 年及び 2017年にあっては 2.2、2018 年では 2.3 である。したがって、アメリカ合衆国における労働災害発生率は休業 1 日以上のものを対象にしていること、危険性の低い業種を除外していること等を考慮に入れても、日本の休業 4 日以上及び死亡災害を対象としている発生率よりは高いと考えられる。		
EU 加盟 28 カ 国全体	2013年	非致死的な災害についての雇用者 10 万人当たりの発生数 (つまり発生率) 1533.39 (暫定値) (年千人率に換算すると約 15.33)	<ul><li>休業 4 日以上のものが対象である。</li><li>通勤災害は、除外されてい</li></ul>	• European Statistics on Accidents at Work (略称: ESAW), Eurostat
	2014年 2015年 2016年	1554.08 (年千人率に換算すると約 15.54) 1513.02 (年千人率に換算すると約 15.13) 1585.66 (年千人率に換算すると約 15.86)	る。 <ul><li>英国のHSEが公表する統計では、道路交通災害は除外</li></ul>	( <u>hsw_n2_01</u> ) (2019 年 7 月 8 日更新版) • European Statistics on
英国	2013年 2014年 2015年	非致死的な災害についての雇用者 10 万人当たりの発生数 (つまり発生率) 831.68 (年千人率に換算すると約8.32) 827. 27 (年千人率に換算すると約8.27) 760.37 (年千人率に換算すると約7.60)	されているが、European Statistics on Accidents at Work (略称: ESAW)では対 象に含まれている	Accidents at Work, (ESAW), Summary methodology, 2013 edition

	2016年	721.87(年千人率に換算す	<b>けると約 7.20</b> )
ドイツ	2013年	1900.01(同上。年千人率	に換算すると約 19.0)
	2014年	1855.71(同上。	約 18.6)
	2015年	1812.27(同上。	約 18.2)
	2016年	1834.29(同上。	約 18.3)
フランス	2013年	3,041.67(同上。年千人率	区に換算すると約 30.4)
	2014年	3,326.98(時系列的な断絶な	がある。)
		(同上。	約 33.3)
	2015年	3,160.29(同上。	約 31.6)
	2016年	3,458.28(同上。	約 34.6)

2 致死的な労働災害(つまり死亡傷害)の発生率についての日本及びアメリカ合衆国と、EU 加盟諸国全体、これらのうち英国、フランス及び ドイツとの標準化されていない *(実際の)* 発生率についての国別(地域別)比較

国別	統計の	労働災害紛	計の指標の種類及び関係するデータ	左欄の指標に関する留意事	資料出所
	対象年			項	
	(年度)				
日本	2013 年~ 2018 年	年 2013 2014 2015 2016 2017 2018	労働者 10 万人当たりの死亡傷害発生数 (試算の方法は、別記を参照されたい。) 2.07 2.11 1.92 1.80 1.87	<ul><li>労働安全衛生法に基づく報告義務のない公務従事者は、除外されている。</li><li>道路交通災害を含む。</li></ul>	労働者死傷病報告、総務省労働力調査に基づく厚生労働省公表資料

アメリカ	2012 年~	年	フルタイム等価労働者換算(equivalent full-time	● いずれも道路交通災害を	News release, Bureau of labor
合衆国	2017年		workers: 以下同じ。)10万人当たり。下欄で別に	含む。	Statistics,
			明示しない限り公務従事者等を含む全労働者につ		U.S. DEPARTMENT OF LABOR
			いての発生率である。		NATIONAL CENSUS OF
		2012	3.4		FATAL OCCUPATIONAL
			そのうち、民間産業については、3.6		INJURIES IN 2017
		2013	3.3		
			そのうち、民間産業については、3.5		
		2014	3.4		
			そのうち、民間産業については、3.7		
		2015	3.4		
			そのうち、民間産業については、3.6		
		2016	3.6		
			そのうち、民間産業については、3.8		
		2017	3.5		
			そのうち、民間産業については、3.7		
EU 加盟	2013年	1.8(暫定	<u></u>	• 通勤災害は、除外されてい	Fatal Accidents at work by
28 カ国全	2014年	1.82		る。	NACE Rev. 2 activity :
体	2015年	1.83			Last update: 08.07.19
	2016年	1.71			Source of data: Eurostat
英国	2013年	0.92			
	2014年	0.81			
	2015年	0.83			

	2016年	0.8	
ドイツ	2013年	0.99	
	2014年	1.09	
	2015年	0.97	
	2016年	0.88	
フランス	2013年	2.96	
	2014年	2.7 (時系列上の不連続がある。)	
	2015年	257	
	2016年	2.74	

(別記-資料作成者注:日本の労働者 10 万人当たりの労働災害死亡率(2013~2018)の試算結果(2019年7月に試算した。雇用者数については総務省統計局の最新版のデータによる。)

日本の労働者 10 万人当たりの労働災害死亡率 (2013~2018) の試算 (2019年7月)

年	死亡者数	該当する年の雇用者	左欄のうち、役員	B のうち、公務及び国	D= <b>b</b> - C (単位万人)	労働者 10 万人当たりの死亡傷害
	(A)(厚生	数合計(万人。資料出	を除く雇用者数	防·義務的社会保障事業	(公務及び国防・義務的社会保	発生数(E)=((A)÷ (D) ×10)
	労働省労働	所:総務省統計局)(B)	(b)	(国際分類の 0 に該当	障事業従事者 (C) については、	
	基準局)	毎年4月のデータ		する) 従事者数 (単位万	役員はいないものと想定し	
				人) (C) (各年の平均)	た。)	
2013	1,030	5,558	5,213	229	4,984	2.07
2014	1,057	5,603	5,256	235	5,021	2.11
2015	972	5,653	5,303	231	5,072	1.92
2016	928	5,741	5,391	231	5,160	1.80
2017	978	5,810	5,460	229	5,231	1.87
2018	909	5,927	5,596	232	5,364	1.69

資料出所

- 「死亡者数 (A) (厚生労働省労働基準局)」: 職場のあんぜんサイト http://anzeninfo.mhlw.go.jp/user/anzen/tok/anst00.htm から抜粋した。
- 「該当する年の雇用者数合計 (万人。資料出所:総務省統計局)(B)」及び「左欄のうち、役員を除く雇用者数(b)」: <a href="http://www.stat.go.jp/data/roudou/longtime/03roudou.html">http://www.stat.go.jp/data/roudou/longtime/03roudou.html</a> における「長期時系列表 10(1)年齢階級(10歳階級)別就業者数及び年齢階級(10歳階級),雇用形態別雇用者数 全国」http://www.stat.go.jp/data/roudou/longtime/zuhyou/lt52.xls から抜粋した。
- 「雇用者のうち、公務及び国防・義務的社会保障事業(国際分類の O に相当する。)従事者数(単位万人)(C)(各年の平均)」: <a href="http://www.stat.go.jp/data/roudou/longtime/03roudou.html">http://www.stat.go.jp/data/roudou/longtime/03roudou.html</a>」 における「長期時系列表 5 (4)産業(第 12・13 回改定分類)別雇用者数 − 全国」 <a href="http://www.stat.go.jp/data/roudou/longtime/zuhyou/lt05-06.xls">http://www.stat.go.jp/data/roudou/longtime/zuhyou/lt05-06.xls</a> から抜粋した(最新版のデータによる。)。